

Museum Data

ミュージアム・データ
Newsletter of TANSEI INSTITUTE

Number 72

ISSN 1346-5155



写真 九州国立博物館 [撮影：奥村浩司]

特集 2005年度開設博物館情報 (開設博物館一覧表：218館掲載)

特集 2005年度リニューアル博物館情報 (リニューアル博物館一覧表：197館掲載)

●Museum in News 新聞タイトルリリース情報

特集：2005年度開設博物館情報

丹青研究所調べによる、平成17年度（2005年4月～2006年3月）に開設した全国の博物館数は218館です。ここでは、各館からいただいた資料や当研究所が独自に収集したデータをもとに、2005年度の開設博物館について傾向を示し、都道府県別の開設館リストを掲載します。

■2005年度開設博物館の傾向

2005年度の開設博物館数は昨年度の223館に比べて若干減少しました。1990年代（10年間）の平均年間開設数313館と比べると大幅に減少しています。また、2005年度を含めた2000年代（6年間）の平均年間開設数242館と比べても少ない値です。

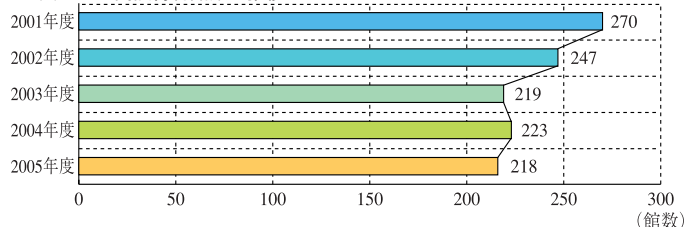
2005年度の開設博物館は、博物館を単独で建設する事例が37%、他の既存施設を転用して博物館とする「既存施設活用型」や複合施設・他施設の一部に博物館を設置する「複合施設型」「他施設内併設型」の施設が合わせて63%を占めており、昨年度と同様に、最近の傾向として顕著な結果を示しています。

「既存施設活用型」の施設には、現在、各地で数多く登録されている登録有形文化財や重要文化財に指定されている建物などの歴史的建造物や廃校となった旧校舎を活用する事例が多く見られました。また、商店街の空き店舗や旧銀行、旧役場などの空き施設を活用して地域の活性化に取り組む拠点として整備する事例も見られました。閉館した博物館などの展示施設を活用して、新たな施設として開館する事例が見られたことも最近の特徴の一つとして挙げられます。

「複合施設型」「他施設内併設型」の施設には、市民ホールや図書館、生涯学習センターなどの複合文化施設に併設する事例をはじめ、再開発ビル、観光施設、商業施設など、集客性の高い施設に設置する事例が目立ちました。また、企業が展示施設を自社建物内に設置する事例や敷地内にある工場などの建物を活用してPR施設を整備する事例も特徴の一つに挙げられます。

そのほか、2005年度の開設博物館には、近年、特に増加傾向にある、旧施設を現在にふさわしい施設として整備し直すために移転オープン、再建オープンした事例が多く含まれています。それまでの展示や機能を変更して、楽しくわかりやすい展示手法を採用したり、体験型施設へと転換を図る事例や、展示・収蔵・普及・サービス空間の拡張を図る事例を各地で確認することができます。

＜図－1＞開設博物館数の推移

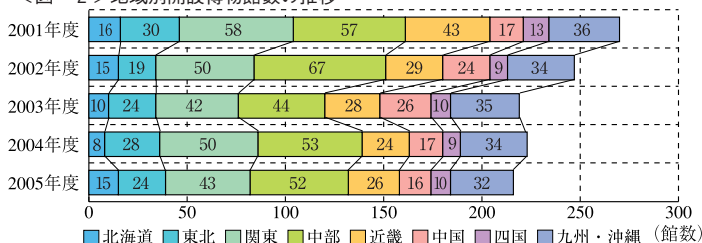


■地域別に見た開設傾向

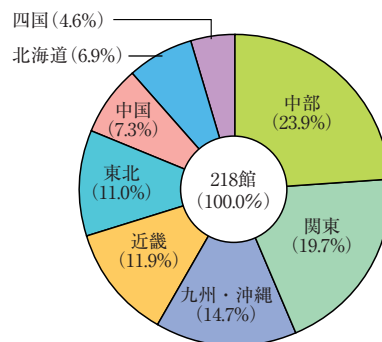
地域別開設博物館数は、昨年度と比べて、特に北海道（8館→15館）の増加が目立ちました。一方、関東（50館→43館）や東北（28館→24館）などでは減少しています。2001年度のデータと比べると、全ての地域で減少しており、特に近畿（43館→26館）、関東（58館→43館）の減少傾向が目立ちます。

都道府県別では、北海道（8館→15館）、東京都（18館→24館）、三重県（1館→7館）、香川県（3館→8館）の増加と、岩手県（9館→1館）、神奈川県（11館→4館）、山口県（6館→1館）、鹿児島県（7館→2館）の減少が目立ちました。岩手県、神奈川県の大規模な減少は、関東、東北の減少傾向に影響しています。また、徳島県（1館→0館）では、2005年度の開設博物館を確認することができませんでした。北海道、東京都、長野県（10館）の開設数（計49館）が全体の約22.5%に該当する一方で、開設数2館以内とする県は15県と都道府県全体の約31.9%に該当するなど、地域によって開きが見られます。

＜図－2＞地域別開設博物館数の推移



＜図－3＞地域別開設博物館数の比率



■館種別に見た開設傾向

館種別開設博物館数は、昨年度と比べて、美術（49館→56館）の増加が目立ちます。この要因として、会社（経営者・創立者）や個人が所蔵する絵画などの美術品を公開する事例の増加傾向が挙げられます。一方、自然史（19館→12館）は大きく減少しました。また、構成比について見ると、これまで年々増加傾向を示し、昨年度にはついに6割を超えた人文が、さらに増加（60.1%→61.9%）しています。

＜表－1＞館種別開設博物館数

	2003年度	2004年度	2005年度
全 体	219館 (100.0%)	223館 (100.0%)	218館 (100.0%)
人 文	130館 (59.4%)	134館 (60.1%)	135館 (61.9%)
美 術	53館 (24.2%)	49館 (22.0%)	56館 (25.7%)
自 然 史	24館 (11.0%)	19館 (8.5%)	12館 (5.5%)
理 工	10館 (4.6%)	13館 (5.8%)	12館 (5.5%)
動 水 植	2館 (0.9%)	8館 (3.6%)	3館 (1.4%)

※（ ）内は構成比

■設立主体別に見た開設傾向

設立主体別開設博物館数は、昨年度と比べて、市・区（49館→59館）、個人・その他（34館→43館）が増加しました。一方、町・村（57館→41館）は大幅に減少しています。市町村合併後の新市で開設した博物館が増え、市町村合併が一段落した後の町・村では町・村数の減少とともに、博物館の開設数も減少したと考えることができます。なお、法人（60館→56館）は昨年度に比べて減少していますが、近年では、企業が所有するコレクションの展示施設やPR館の事例は多く見られます。

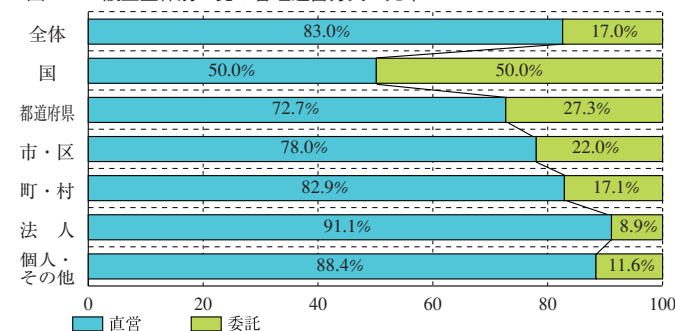
＜表－2＞設立主体別開設博物館数

	2003年度	2004年度	2005年度
全 体	219館(100.0%)	223館(100.0%)	218館(100.0%)
国	14館(6.4%)	10館(4.5%)	8館(3.7%)
都道府県	11館(5.0%)	13館(5.8%)	11館(5.0%)
市・区	51館(23.3%)	49館(22.0%)	59館(27.1%)
町・村	44館(20.1%)	57館(25.6%)	41館(18.8%)
法 人	59館(26.9%)	60館(26.9%)	56館(25.7%)
個人・その他	40館(18.3%)	34館(15.2%)	43館(19.7%)

※（ ）内は構成比

国には、国土交通省や厚生労働省、内閣府、独立行政法人の施設などが含まれています。また、国（文化庁）と県によって設置された施設も今回は国に含めました。法人には、公益法人や会社法人、NPO法人などの施設が含まれます。個人・その他には、市民団体によって設置された施設なども含まれています。

＜図－4＞設立主体別に見る管理運営方式の比率



昨年度と比べて直営方式が増加しています。全体（76.7%→83.0%）だけでなく、個人・その他を除く各設立主体でそれぞれ直営方式が増加しました。都道府県（30.8%→72.7%）では大幅に増加しており、市・区（67.3%→78.0%）、国（40.0%→50.0%）、町・村（77.2%→82.9%）でも増加が目立ちます。都道府県、市・区、町・村に見られる直営方式の増加傾向は、「指定管理者制度」の導入結果による影響の表れと捉えることができます。

■施設規模に関する傾向

有効データ数：126館 延床面積は、全体の平均値（1,336㎡→1,421㎡→1,537㎡）が年々増加している一方で、中央値（700㎡→531㎡→382㎡）は年々小さくなっています。大型の施設が幾つか開設されることにより、平均値は増加しているものの、全体的には中・小規模の施設が多くなっていることがわかります。館種別に見ると、人文、自然史、理工で、平均値、最大値がともに昨年度を上回っています。特に、理工の平均値は他を大きく上回っており、大規模施設が複数開設されたことが影響しています。一方、美術は平均値、中央値、最大値が昨年度をそれぞれ下回っており、小規模化の傾向が顕著に表れています。

次に、設立主体別に見ると、昨年度に比べて、国、都道府県、個人・その他の平均値、最大値が増加しています。国、個人・その他の傾向は、最大値を見てわかるように大規模施設の開設が影響しています。また、都道府県は、唯一、中央値が平均値を上回っており、他に比べ、

大規模施設が多く開設されたことがわかります。開設館数の多い市・区、町・村、法人では、市・区の平均値が昨年度を上回ったものの、中央値、最大値は全て昨年度から減少しており、小規模化の傾向が看取できます。

規模別開設博物館数の比率を見ると、1,000㎡未満の施設の占める割合（67.4%→67.9%→76.9%）が増加傾向にあり、500㎡未満の施設の占める割合（39.3%→46.9%→57.9%）は6割近くを示しました。館種別に見ると、人文、美術、自然史では、500㎡未満の施設が半数以上を占めています。

＜表－3＞館種別の延床面積（最大値、最小値、平均値、中央値）

	最大値	最小値	平均値	中央値
全 体(126館)	30,085<17,069>	40< 33>	1,537<1,421>	382< 531>
人 文(84館)	30,085< 7,598>	40< 44>	1,504< 933>	359< 440>
美 術(28館)	9,876<17,069>	66< 33>	1,257<1,918>	371< 509>
自然史(8館)	7,290<1,378>	98<190>	1,812< 779>	379< 654>
理 工(5館)	5,884<4,088>	180<168>	3,389<1,887>	4,240<1,649>
動水植(1館)	770<12,804>	770<8,246>	770<10,086>	770<9,646>

※（ ）内は有効データ館数 ※< >内は前年度数値 ※単位は㎡

人文、美術、自然史では中央値が平均値を大きく下回っているため、平均値以下の施設が多数を占めていることがわかります。

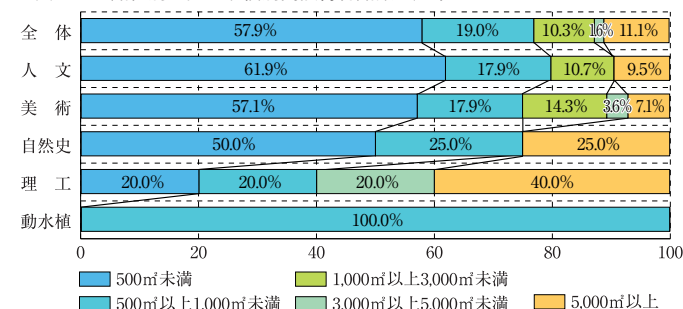
＜表－4＞設立主体別の延床面積（最大値、最小値、平均値、中央値）

	最大値	最小値	平均値	中央値
全 体(126館)	30,085<17,069>	40< 33>	1,537<1,421>	382< 531>
国 (3館)	30,085<13,487>	257<522>	10,417<3,209>	910< 618>
都道府県(8館)	9,876< 8,411>	180<224>	4,971<3,221>	5,983<1,649>
市・区(38館)	9,886<17,069>	158< 44>	1,806<1,565>	570< 637>
町・村(28館)	2,464<3,217>	53< 92>	575< 889>	373< 615>
法 人(27館)	5,773<12,804>	90< 87>	782<1,496>	369< 474>
個人・その他(22館)	13,309<3,664>	40< 33>	766< 502>	135< 138>

※（ ）内は有効データ館数 ※< >内は前年度数値 ※単位は㎡

都道府県以外の設立主体では中央値が平均値を大きく下回っているため、平均値以下の施設が多数を占めていることがわかります。

＜図－5＞館種別に見る規模別開設博物館数の比率



■総工事費に関する傾向

有効データ数：69館 全体の平均値（983,561千円→1,560,464千円）は昨年度に比べて増加していますが、中央値（210,967千円→122,000千円）は昨年度を下回っています。施設規模に関する分析と同様の傾向が看取できます。例えば、館種別に見た場合、人文、自然史、理工で、平均値、最大値が昨年度を上回っていますが、施設規模に関する傾向と同様に、大規模施設の開設が影響した結果であると考えます。

総工事費別開設博物館数の比率を見ると、5億円未満（60.2%→68.9%→71.0%）の施設が年々増加傾向にあり、全体の7割以上を占めました。これは、中・小規模施設の開設が増えていることを裏付けています。また、前述したように、新たに建物を建設せずに、既存施設を改修したり、複合施設や他施設の一部として博物館を設置する事例が増えていることも影響していると考えます。

＜表－５＞館種別の総工事費（最大値、最小値、平均値、中央値）

	最大値	最小値	平均値	中央値
全 体 (69館)	29,900,000 <14,000,000>	1,000 770	1,560,464 <983,561>	122,000 <210,967>
人 文 (42館)	29,900,000 <5,068,425>	1,458 770	1,684,360 <531,052>	123,958 <116,400>
美 術 (15館)	6,300,000 <14,000,000>	1,000 6,000	989,067 <1,904,610>	50,000 <136,887>
自然史 (6館)	7,166,000 <835,708>	12,000 111,819	1,764,599 <407,559>	115,633 <424,000>
理 工 (5館)	4,895,625 <1,400,000>	15,000 11,000	2,236,056 <571,442>	1,981,954 <462,168>
動水植 (1館)	325,000 <7,500,000>	325,000 <4,032,000>	325,000 <5,871,548>	325,000 <5,977,096>

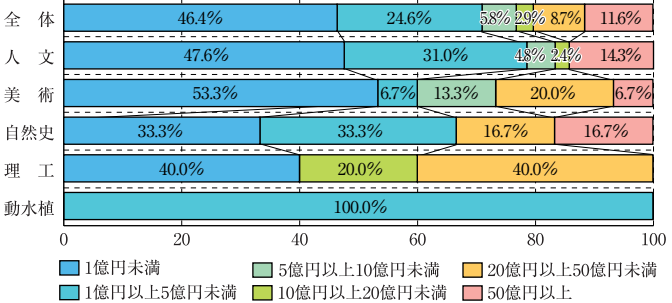
※（ ）内は有効データ館数 ※< >内は前年度数値 ※単位は千円
動水植を除く、全ての館種で中央値が平均値を下回っているため、平均値以下の施設がそれぞれにおいて多数を占めていることがわかります。

＜表－６＞設立主体別の総工事費（最大値、最小値、平均値、中央値）

	最大値	最小値	平均値	中央値
全 体 (69館)	29,900,000 <14,000,000>	1,000 770	1,560,464 <983,561>	122,000 <210,967>
国 (2館)	29,900,000 <14,000,000>	38,325 <470,000>	14,969,163 <3,225,800>	14,969,163 <519,000>
都道府県 (7館)	8,900,000 <7,000,000>	88,000 <319,000>	4,121,143 <2,707,369>	3,140,000 <1,807,500>
市・区 (25館)	6,500,000 <11,300,000>	10,346 15,416	1,404,632 <921,408>	140,647 <179,000>
町・村 (13館)	2,000,000 <1,664,250>	4,052 8,000	339,046 <338,088>	135,969 <197,940>
法人 (11館)	700,000 <7,500,000>	1,458 770	108,891 <985,132>	20,000 <80,000>
個人・その他 (11館)	8,000,000 <600,000>	1,000 4,356	742,222 <125,559>	12,000 <13,000>

※（ ）内は有効データ館数 ※< >内は前年度数値 ※単位は千円
国を除く、全ての設立主体で中央値が平均値を下回っているため、平均値以下の施設がそれぞれにおいて多数を占めていることがわかります。

＜図－６＞館種別に見る総工事費別開設博物館数の比率



■入館料金や休館日の設定に関する傾向

有効データ数：218館 有料館と無料館の比率は昨年度と同様、ほぼ半数ずつとなりました。また、館種別に無料館の比率を見ると、自然史、理工、人文、美術の順で高い値を示しており、8割以上が無料館の自然史を筆頭に、理工、人文では半数以上が無料館です。また、美術（16.3%→25.0%）、自然史（78.9%→83.3%）の無料館の比率は昨年度に比べて増加しています。

入館料金の設定状況を見ると、昨年度に比べて平均値（450円→382円）が減少し、300円台となりました。入館料金の設定額は、昨年度と同様、300円（25.5%）、200円（21.8%）、500円（17.3%）の順で多く採用されています。

有効データ数：118館 休館日の設定状況を見ると、月曜日（52.5%）を休館日に設定している施設が5割を超え、火曜日（28.0%）、水曜日（8.5%）の順で多くなっています。これまで多かった月曜休館以外に、火曜休館を選択する施設が多く見られるようになりました。

＜表－７＞館種別の有料館数と無料館数

	有料館	無料館
全 体 (218館)	110館 (50.5%) <111館 (49.8%)>	108館 (49.5%) <112館 (50.2%)>
人 文 (135館)	59館 (43.7%) <56館 (41.8%)>	76館 (56.3%) <78館 (58.2%)>
美 術 (56館)	42館 (75.0%) <41館 (83.7%)>	14館 (25.0%) <8館 (16.3%)>
自然史 (12館)	2館 (16.7%) <4館 (33.3%)>	10館 (83.3%) <15館 (78.9%)>
理 工 (12館)	4館 (33.3%) <2館 (15.4%)>	8館 (66.7%) <11館 (84.6%)>
動水植 (3館)	3館 (100.0%) <8館 (100.0%)>	0館 (0.0%) <0館 (0.0%)>

※（ ）内は有効データ館数 ※< >内は前年度数値

＜表－８＞種別の入館料金（最大値、最小値、平均値）

	最大値	最小値	平均値
全 体 (110館)	1,800<2,000>	100<100>	382< 450>
人 文 (59館)	1,000< 800>	100<100>	335< 317>
美 術 (42館)	1,000<2,000>	100<100>	400< 515>
自然史 (2館)	400< 400>	200<300>	300< 350>
理 工 (4館)	500< 600>	210<300>	353< 450>
動水植 (3館)	1,800<2,000>	100<200>	1,133<1,199>

※（ ）内は有効データ館数 ※一般（大人料金）ただし企画・特別展料金を除く
※< >内は前年度数値 ※単位は円

２００５年度開設博物館一覧表

丹青研究所調べによる平成17年度（2005年4月～2006年3月）の開設館のリストです。このなかには、旧施設を発展的に解消して移転新築、取り壊し新築した館も含まれています。

●北海道

館 園 名	年月	所 在 地	電話番号
旭川市科学館（サイバル）	05.07	旭川市宮前通東	0166-31-3186
榎木孝明水彩画館	05.10	上川郡美瑛町瑠辺築第二	0166-95-2339
小樽 旧板谷邸「海宝楼」	05.04	小樽市東雲町1-19	0134-31-4433
勝山館跡ガイダンス施設	05.04	檜山郡上ノ国町勝山	0139-55-2400
きたくま文化蔵	05.08	上川郡清水町熊牛125	0156-62-6888
釧路市こども遊学館	05.07	釧路市幸町10-2	0154-32-0122
クラシックカーミュージアム函館	05.04	函館市若松町12-13 クィーンズポートはこだて1F・3F	0138-23-5577
佐藤克教現代木版画館	05.04	河西郡中札内村栄東5線	0155-68-3003
定山渓温泉博物館	05.07	札幌市南区定山渓温泉東3	011-598-2012
関口雄揮記念美術館	05.07	札幌市南区常盤3条1-7-19 芸術の森入り口	011-593-5050
DCTgardenIKEDA	05.10	中川郡池田町清見83 池田ワイン城内	015-572-3938
福島町青函トンネル記念館	05.04	松前郡福島町三岳32-1	0139-47-3020
マウレ・メモリアル・ミュージアム	05.06	紋別郡遠軽町丸瀬布上武利164	0158-49-5181
豆資料館（ビーンズ邸）	05.08	河西郡中札内村大通南7-14	0155-68-3390
宮尾登美子文学記念館	05.04	伊達市梅本町57-1	0142-21-7700

●青森県

会津斗南藩資料館「向陽処」	05.04	下北郡大間町大間64-1	0175-37-3307
大山将棋記念館（王将館）	05.08	上北郡おいらせ町下前田144-1	0178-52-1411
風待ち館	05.04	西洋軽郡深浦町深浦浜町272-1	0173-74-3553
ツカハラミュージアム	05.05	八戸市北インター工業団地4-2-57 テクノクラフトC&V（株）内	0178-21-1656
常田健・土蔵のアトリエ美術館	05.05	青森市浪岡北中野下嶋田48	0172-62-2442
NonoUe人形の館	05.04	上北郡七戸町中村55	0176-62-5678
はたて広場	05.04	東津軽郡平内町土屋鍵懸56	017-752-3220

●岩手県

釜石市郷土資料館	05.05	釜石市鈴子町15-2 釜石市教育センター北側	0193-22-2046
----------	-------	------------------------	--------------

●宮城県

菅野美術館	06.03	塩竈市玉川3-4-15	022-361-1222
仙台城見聞館	06.03	仙台市青葉区川内1-11 本丸跡・伊達政宗騎馬像西側	022-214-8544
本吉町大谷鉱山歴史資料館	05.04	本吉郡本吉町高瀬ヶ森58-16	0226-44-2816

●秋田県

秋田県埋蔵文化財センター 中央調査課男鹿整理収蔵室	05.05	男鹿市船川港比詰餅ヶ沢200	0185-23-2296
くし・かんざし史料館	05.11	能代市河戸川大須賀41-1	090-2790-2945
東海林太郎音楽館	05.08	秋田市大町2-1-11	018-823-5145
TDK歴史館	05.12	にかほ市平沢町書面15 TDK平沢工場敷地内	0184-35-6580
フォーエバー現代美術館	06.03	秋田市中通1-3-5 秋田キャッスルホテル2F	018-825-5588

●山形県

小国町マタギの郷交流館	05.05	西置賜郡小国町小玉川535-1	0238-64-2525
酒田あいおい工藤美術館	06.03	酒田市相生町1-3-17	090-2846-6846
鶴岡アートフォーラム	05.08	鶴岡市馬場町13-3	0235-29-0260

●福島県

近代美術史料館	05.04	喜多方市さつきが丘31-1	0241-23-3920
鮫川村環境学習館	05.04	東白川郡鮫川村赤坂中野新宿64-2 鮫川村図書館内	0247-29-1150
サロン文化美術館	05.09	郡山市堤下町3-1	024-922-1641
椎名誠写真館	05.07	大沼郡金山町大栗山荒浜2832	0241-55-3445
福島市子どもの夢を育む施設（こむこむ）	05.07	福島市早稲町1-1	024-524-3131

●茨城県

茨城県霞ヶ浦環境科学センター	05.04	土浦市沖宿町1853	029-828-0960
----------------	-------	------------	--------------

●栃木県

足尾歴史館	05.04	日光市足尾町松原2825	0288-93-0189
皇室聖鑑美術館那須別館雅雄山庵	05.12	那須郡那須町高久甲6104-2	0287-64-0250
日光人形の美術館	05.05	日光市鬼怒川温泉藤原19-96	0288-77-1211

●群馬県

群馬県立ぐま昆虫の森	05.08	桐生市新里町鶴ヶ谷460-1	0277-74-6441
富弘美術館	05.04	みどり市東町草木86	0277-95-6333

●埼玉県

北川辺町郷土資料館	05.06	北埼玉郡北川辺町麦倉458 ライスパーク内	0280-62-1710
スマイルハウス	05.08	吉川市木売2-15-1	048-982-2780
足袋とくらしの博物館	05.10	行田市行田1-2	090-8726-4962
ブレーキ博物館「ai-museum」	05.04	羽生市東5-4-71 Ai-City内	048-560-1570
吉見町埋蔵文化財センター	05.04	比企郡吉見町北吉見321	0493-54-9111

●千葉県

市川市東山魁夷記念館	05.11	市川市中山1-16-2	047-333-2011
市川市文学プラザ	05.10	市川市鬼高1-1-4 市川市生涯学習センター3F	047-320-3354
中和堂中国美術館	05.04	山武郡芝山町岩山2175	0479-77-1228
茂木本家美術館（MOMOA）	06.01	野田市野田242	04-7120-1011

●東京都

アクティブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」	05.08	新宿区西早稲田2-3-18 AVACOビル2F	03-3202-4633
稲城市郷土資料室	05.07	稲城市平尾1-9-1 複合施設ふれんど平尾2F	042-378-2111
エプソン品川アクアスタジオ	05.04	港区高輪4-10-30	03-5421-1111
かちどき 橋の資料館	05.05	中央区築地6-20-11 築地市場勝どき門横	03-3543-5672
感どろする経済館	05.11	港区芝公園4-2-8 東京タワー・フットタウン4F	03-3433-5111
ギネス世界記録博物館	05.08	港区芝公園4-2-8 東京タワー・フットタウン3F	03-5425-2100
在日韓人歴史資料館	05.11	港区南麻布1-7-32 韓国中央会館別館	03-3457-1088
柴又のおもちゃ博物館	05.04	葛飾区柴又7-3-12 柴又ハイカラ横丁2F	03-3673-2256
渋谷区ふれあい植物センター	05.04	渋谷区東2-25-37	03-5468-1384
しょうけい館（戦傷病者史料館）	06.03	千代田区九段南1-5-13 共同ビル九段2号館	03-3234-7821
昭和幻燈館	05.04	青梅市住江町9	0428-20-0355
昭和天皇記念館	05.11	立川市緑町3173 国営昭和記念公園 花みどり文化センター内	042-540-0429
昭和ネオン高村看板ミュージアム	06.03	品川区南品川11-7-17	03-3471-4140
白根記念渋谷区郷土博物館・文学館	05.07	渋谷区東4-9-1	03-3486-2791
新藤簾展示館	05.12	墨田区横綱1-12-21	03-3626-1029
スノードーム美術館	05.10	世田谷区池尻2-4-5 世田谷ものづくり学校109号室	03-5433-0081
中央区立郷土天文館（タイムドーム明石）	05.12	中央区明石町12-1 中央区保健所等複合施設6F	03-3546-5537
東洋大学井上円了記念博物館	05.04	文京区白山5-28-20 東洋大学白山 キャンパス5号館1F（井上記念館内）	03-3945-8764
日野市郷土資料館	05.04	日野市程久保550	042-592-0981
日野市立新選組のふるさと歴史館*	05.12	日野市神明4-16-1	042-583-5100
ファール昆虫館「虫の詩人の館」	06.03	文京区千駄木5-46-6	03-3824-1580
ボーラ化粧文化情報センター	05.06	中央区銀座1-7-7 ボーラ銀座ビル3F ボーラ文化研究所内	03-3564-3651
三井記念美術館	05.10	中央区日本橋室町2-1-1 三井本館7F	03-5777-8600
早稲田大学大隈記念タワー 125記念室	06.03	新宿区西早稲田1-6-1	03-5272-4783

※日野市立新選組のふるさと歴史館分館「日野宿本陣」は2005年4月より公開

●神奈川県

鎌倉彫資料館	05.11	鎌倉市小町2-15-13 鎌倉彫会館1F	0467-25-1502
函嶺・ふる里集蔵館	05.04	足柄下郡箱根町箱根92-1	0460-83-6301
平賀敬美術館	05.11	足柄下郡箱根町湯本613	0460-85-8327
ヨコハマ猫の美術館	05.04	横浜市中区山手町76-1	045-662-6821

●新潟県

粟島浦村資料館	05.08	岩船郡粟島浦村内浦158	0254-55-2116
飯野紀雄 松の山美術館UZU	05.05	十日町市松の山新山1228	025-596-3262
あしんの里記念館（あしんミュージアム）	05.08	上越市板倉区米増27-4	0255-81-4541
絵馬と土鈴の館	05.06	柏崎市東本町2-7-47	0257-23-6975
小川未明文学館	05.10	上越市本城町8-30 高田図書館内	025-523-1083
こども野球館	05.10	長岡市関原町1-5332	0258-21-0501
縄文の里・朝日 奥三面歴史交流館	05.07	岩船郡朝日村岩崩612-118	0254-72-1577
中村十作記念館	05.10	上越市板倉区稲増109-1 稲増集落開発センター	0255-78-2141
新潟・上越 山下美術館	05.09	上越市春日新田5-20-5 山下商会3F	025-545-4321

●富山県

高岡市伏木気象資料館	05.10	高岡市伏木古国府12-5	0766-44-6905
ひみ獅子舞ミュージアム	05.04	水見市泉760	0766-72-2454
福野文化創造センター分館「喜知屋」	05.11	南砺市福野1655	0763-22-2024

●石川県

角俣三郎美術館	05.09	七尾市和倉町ワ部65-1	0767-62-4000
金沢文芸館 金沢五木寛之文庫	05.11	金沢市尾張町1-7-10	076-263-2444
勸進帳ものがたり館	05.04	小松市安宅町タ140-4	0761-21-6734
徳田秋聲記念館	05.04	金沢市東山1-19-1	076-251-4300
松井秀喜ベースボールミュージアム	05.12	能美市山口町口137	0761-22-2447

●福井県

ONO MEMORIAL	05.10	坂井市三国町緑ヶ丘3-6-13	0776-81-3556
--------------	-------	-----------------	--------------

●山梨県

鉾沢町スポーツミュージアム	05.04	南巨摩郡鉾沢町4852-1 鉾沢町交流センター塩の華内	0556-20-2111
花火資料館	05.08	西八代郡市川三郷町高田531-1	055-240-4157
山梨県立博物館（かいじあむ）	05.10	笛吹市御坂町成田1501-1	055-261-2631
山梨大学近代文学文庫	05.11	甲府市武田4-4-37 山梨大学附属図書館内	055-220-8066

●長野県

安曇野東山「包」美術館	05.04	北安曇郡池田町会染7700-1	0261-62-5078
飯山市ふるさと館	06.03	飯山市飯山1434-1	0269-67-2030
石川島汎用機械史料館	05.06	上伊那郡辰野町伊那富3934	0266-41-1221
小川村郷土歴史館ふるさとらんど小川	05.04	上水内郡小川村高府9307	026-269-3146
坂本宿ふるさと歴史館	05.10	埴科郡坂城町坂城6329-1	0268-82-4193
茅野市美術館	05.10	茅野市仲町1-22 茅野市民館内	0266-82-8222
斑尾高原 紫音ハーブミュージアム	05.06	飯山市斑尾高原11492-166	0269-64-2515
山下喜吉はかり資料室	05.11	松本市和田3967-10 東洋計器(株)本社内	0263-48-1121
山寺常山邸	05.04	長野市松代町松代1493-1	026-278-0260
養命酒健康の森記念館	05.11	駒ヶ根市赤穂16410	0265-82-3310

●岐阜県

小倉自然館	05.04	本巣市下福島豊持233	058-328-3629
想い出資料館メモリアルかわい	05.10	飛騨市河合町角川1223-1 飛騨市河合振興事務所3F	0577-65-2221
日根野美術館	06.01	飛騨市古川町吉之町3-10	0577-73-6257
水の体験学習館	05.04	岐阜市鏡岩 岐阜公園・水源広場内	058-265-4141
水辺共生体験館	05.04	各務原市川島笠田町 河川環境楽園内	0586-89-6036
美濃和紙あかりアート館	05.08	美濃市本住町1901-3	0575-33-3772

●静岡県

池田満寿夫・佐藤陽子 創作の家	05.11	熱海市海光町10-24	0557-81-3258
御鎮座千二百年記念資料館	05.08	駿東郡小山町須走126 東口本宮富士浅間神社	0550-75-2038
龍ちゃんのカップ館	05.10	焼津市大住746-2	054-629-7171
東海道町民生活歴史館・志田邸	06.03	静岡市清水区蒲原3-19-28	054-385-7557
東海道由比宿交流館	05.04	庵原郡由比町由比297-1	054-375-5166
長泉町文化財展示館	05.05	駿東郡長泉町下土狩1283-11 コミュニティながいずみ	055-986-9209
富士川町郷土資料館	05.10	庵原郡富士川町岩淵986-1	0545-81-4814
三嶋屠師の館	05.04	三島市大宮町2-5-17	055-976-3088

●愛知県

ヴェネチアンガラス美術館	05.04	名古屋港区港町1-15	052-659-1970
岡島弥生資料館	05.06	西尾市米野町松葉内25 西尾市立三和小学校内	0563-56-2459
航空館boon	05.04	西春日井郡豊山町青山神明120-1	0568-29-0036
立川美術館	05.04	半田市亀崎町6-81-2	0569-29-5897
豊田市近代の産業とくらし発見館	05.11	豊田市喜多町4-45	0565-33-0301
三河天平の里資料館	05.11	豊川市八幡町忍地127-1 三河国分尼寺跡史跡公園内	0533-88-5881

●三重県

大黒星光太夫記念館	05.11	鈴鹿市若松中1-1-8	059-385-3797
津市安濃郷土資料館	05.10	津市安濃町東観音寺51-3 安濃交流会館内	059-268-5678
津市芸濃郷土資料館	05.11	津市芸濃町棕本6824 芸濃総合文化センター内	059-265-6000
初瀬街道交流の館「たわらや」	05.04	伊賀市阿保1418	0595-52-3730
山田奉行所記念館	05.05	伊勢市御園町上條1602	0596-36-8833
四郷版画館	05.05	四日市市西日野町3421-2	059-322-3228
四日市市楠歴史民俗資料館	05.05	四日市市楠町本郷1068	059-398-3636

●滋賀県

海洋堂フィギュアミュージアム黒壁	05.09	長浜市元浜町13-31	0749-68-1680
郷土の偉人館・西澤貞蔵記念館	05.04	愛知郡愛荘町野々目72-3	0749-42-7233

●京都府

小倉百人一首殿堂 時雨殿	06.01	京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町11	075-882-1111
京都市平安京創生館	05.04	京都市中京区丸太町通七本松西入 京都市生涯学習総合センター (京都アスニー) 1F	075-812-7222
ちいさな藍美術館	05.04	南丹市美山町北上牧41 かやぶきの里内	0771-77-0746
標本展示・学習館	05.11	京都市伏見区桃山町永井久太郎68	075-611-1201

●大阪府

貝塚市歴史展示館 (ふるさと知っとこ! 館)	05.10	貝塚市半田138-1	072-431-0500
宮本輝ミュージアム	05.05	茨木市西安威2-1-15 追手門学院大学附属図書館内	072-641-9639
八尾市立しおんじやま古墳学習館	05.04	八尾市大竹5-143-2	072-941-3114

●兵庫県

有馬切手文化博物館	05.05	神戸市北区有馬町663-3	078-904-0024
上月歴史資料館	05.06	佐用郡佐用町上月373	0790-86-1616
神戸花鳥園	06.03	神戸市中央区港島南町7-1-9	078-302-8899
KOBEとんぼミュージアム	05.07	神戸市中央区京町79 日本ビルヂング2F	078-393-8500
心と技の伝承館	05.06	西宮市今津久寿川町12-77 きんでん学園内	0798-33-2200
たでのほな美術館	05.10	赤穂市加里屋2197	090-3496-4282
姫路市埋蔵文化財センター (まい姫)	05.11	姫路市四郷町坂元414-1	079-252-3950
兵庫陶芸美術館	05.10	篠山市今田町上立杭4	079-597-3961

●奈良県

長谷路 版画土蔵館	06.03	桜井市初瀬町857	0744-47-7047
-----------	-------	-----------	--------------

●和歌山県

和歌山市消防局防災学習センター	05.04	和歌山市八番丁12	073-423-0119
-----------------	-------	-----------	--------------

●鳥取県

わかさ美術館	05.10	八頭郡若桜町大野51	0858-83-0567
--------	-------	------------	--------------

●島根県

雲南市掛合酒蔵資料館 (かけや酒蔵資料館)	05.04	雲南市掛合町掛合955-6	0854-62-1122
荒神谷博物館	05.10	簸川郡斐川町神庭873-8	0853-72-9044
島根県立石見美術館	05.10	益田市有明町5-15 島根県芸術文化センター(グラントワ)内	0856-31-1860
益田市立旧割元庄屋・美濃地屋敷 (匹見民俗資料倉)	05.04	益田市匹見町道川イ50	0856-58-0250

●岡山県

浅口市阿藤伯海記念公園 阿藤伯海旧居	06.01	浅口市鴨方町六条院東2385	0865-44-9255
井原市文化財センター 「古代まほろば館」	05.11	井原市井原町333-1	0866-63-3144
岡山市デジタルミュージアム	05.08	岡山市駅元町15-1 リットシティブィル南棟4・5F	086-898-3000
総社市鬼城山ビジターセンター	05.08	総社市黒尾1101-2	0866-99-8566
新見市法曾陶芸館 (猪風来美術館)	05.11	新見市法曾609	0867-75-2444

●広島県

尾道市防災センター	05.10	尾道市東尾道18-2	0848-55-3113
尾道商業会議所記念館	06.03	尾道市土堂1-8-8	0848-20-0400
おのみち歴史博物館	05.04	尾道市久保1-14-1	0848-37-6555
呉市海事歴史科学館 (大和ミュージアム)	05.04	呉市宝町5-20	0823-25-3017
ふくやまラヂオ博物館	06.02	福山市佐波町瀬谷165-6	084-951-4362

●山口県

岩国市立ミクロ生物館	05.07	岩国市由宇町有家浦8500-6 潮風公園みなとオアシスゆう交流館内	0827-62-0155
------------	-------	--------------------------------------	--------------

●香川県

香川近代美術館	05.10	三豊市三野町下高瀬542-1	0875-73-3077
香川県防災センター	05.07	高松市生島町689-11 香川県消防学校教育訓練棟1F	087-881-0567
香川県立東山魁夷せとうち美術館	05.04	坂出市沙弥島南通224-13	0877-44-1333
讃州井筒屋敷 蔵ギャラリーかやま	06.02	東かがわ市引田2163	0879-23-8550
007「赤い刺青の男」記念館	05.07	香川県直島町宮ノ浦2310	087-892-2299
高松市庵治文化館	05.12	高松市庵治町5824-4	087-871-1700
二宮忠八飛行館	06.03	仲多度郡まんのう町追上358-1	0877-75-2000
歯ART美術館	05.05	高松市庵治町生の国3180-2	087-871-0666

●愛媛県

伊方杜氏資料館	05.08	西宇和郡伊方町湊浦1992 伊方町生涯学習センター4F	0894-38-1020
---------	-------	--------------------------------	--------------

●高知県

高知新聞100年記念館	05.05	高知市東雲町3-10 高知新聞東雲センター内	088-885-2111
-------------	-------	---------------------------	--------------

●福岡県

海の中道奈多海水淡水化センター (まみずピア)	05.06	福岡市東区奈多小瀬抜1302-122	092-608-6262
音楽館	05.04	朝倉市黒川1494	0946-29-0345
カメラ想い出館	05.05	直方市古町1-4 カンロクカメラ2F	0949-23-2222
北九州市門司麦酒煉瓦館	05.05	北九州市門司区大里本町3-6-1	093-382-1717
九州国立博物館	05.10	太宰府市石坂4-7-2	092-918-2807
築上町歴史民俗資料館	05.12	築上郡築上町椎田1645-2	0930-56-1575
宮部の森・杉野押花美術館	05.09	大牟田市宮部155-1	0944-56-0487

●佐賀県

さが水ものがたり館	05.12	佐賀市大和町尼寺3247 石井樋公園内	0952-62-1277
肥前国庁跡資料館	05.09	佐賀市大和町久池井2754	0952-62-7441

●長崎県

調川民俗資料館	05.11	松浦市調川町下免136	0956-72-3062
長崎県美術館	05.04	長崎市出島町2-1	095-833-2110
長崎歴史文化博物館	05.11	長崎市立山1-1-1	095-818-8366
深江埋蔵文化財・噴火災害資料館	06.03	南島原市深江町戊2102	0957-72-2512
山本美術館	06.01	雲仙市愛野町乙5886-1	0957-36-3701

●熊本県

熊本県富岡ビジターセンター	05.04	天草郡苓北町富岡本丸2245-15	0969-35-0170
時の隠れ家美術館	05.04	阿蘇郡西原村桑鶴 オーディオ道場内	096-279-4196
人吉城歴史館	05.12	人吉市麓町18-4	0966-22-2324
ふる里俳句館	05.10	八代市豊原下町3849	0965-32-7204

●大分県

風の丘 飯田高原大野勝彦美術館	05.09	玖珠郡九重町田野1712-707	0973-79-2208
世界のカメラ歴史資料館	05.08	佐伯市鶴谷町3-1-9	0972-24-0900
竹未来館	05.11	別府市新港町6-46 別府交通センター2F	0977-24-1811
三浦梅園遺墨館	05.09	国東市安岐町富清447	0978-65-0038
ラムネ温泉美術館	05.08	竹田市直入町長湯7676-2	0974-75-2620

●宮崎県

グリーンパークえびの コレクションギャラリー	06.03	えびの市東川北有留1321-1	0984-25-4211
若山牧水記念文学館	05.04	日向市東郷町坪谷1271 牧水公園内	0982-68-9511

●鹿児島県

串良ふれあいセンター 民俗資料室	05.04	鹿屋市串良町有里507-1	0994-63-5030
南さつま市歴史交流館金峰	05.10	南さつま市金峰町池辺1535	0993-58-4321

●沖縄県

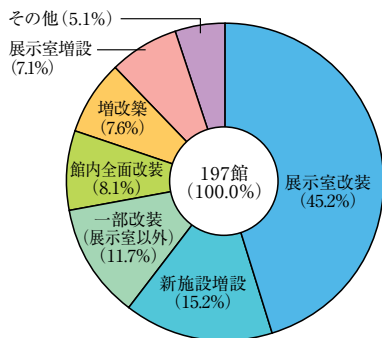
浦添グスク・ようどれ館	05.04	浦添市仲間2-53-1	098-874-9345
沖縄市戦後文化資料展示室 (ヒストリート)	05.09	沖縄市中央1-17-17	098-929-2922
MITSUOシーサー美術館	05.04	那覇市牧志2-1-3	098-862-7800
宮古島市地下ダム資料館	05.09	宮古島市城辺福里1645-8	0980-77-7547
琉球新報新聞博物館	05.04	那覇市天久905	098-865-5311

特集：2005年度リニューアル博物館情報

丹青研究所調べによる、平成17年度（2005年4月～2006年3月）にリニューアルを実施した全国の博物館数は197館です。最近3カ年の推移を見ると、リニューアル博物館の数は年々増加しています（138館→160館→197館）。

前述した新設館の調査結果と同様に、東京都（23館／昨年度より8館増加）と北海道（15館／昨年度より6館増加）の博物館でリニューアル事例が多く見られました。展示内容や展

＜図－1＞リニューアル博物館の内容別比率



展示室改装が全体の半数近くを占めています。展示室改装は、昨年度（38.1%）に比べると7.1ポイント増加（28館増加）しており、顕著な傾向を示しています。一方、「増改築」「新施設増設」「館内全面改装」といった大がかりなリニューアルは館数、比率ともに昨年度より減少しています。

＜表－1＞地域別リニューアル博物館数と比率

北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州・沖縄
15館 (7.6%)	13館 (6.6%)	56館 (28.4%)	43館 (21.8%)	26館 (13.2%)	15館 (7.6%)	10館 (9.6%)	19館 (9.6%)

※（ ）内は構成比

昨年度に比べると、関東（38館→56館／23.8%→28.4%）の増加が顕著です。一方、東北（20館→13館／12.5%→6.6%）では減少傾向が見られました。なお、西日本（近畿、中国、四国、九州・沖縄）では全ての地域で館数、比率が昨年度を上回っており、西日本の比率（30.7%→35.5%）も昨年度に比べて増加しています。

示手法が時代のニーズに合わなくなったことや、市町村合併による展示内容の変更、さらには来館者層（ターゲット）に即した施設環境の整備を理由に、多くのリニューアル事業が各地で行われています。また、中には、複数年をかけるなど、継続的にリニューアル事業に取り組む（部分ごとにリニューアルを実施する）事例を幾つも確認することができました。

ここでは、各館からいただいた資料や当研究所が独自に収集したデータをもとに、2005年度のリニューアル博物館の傾向について報告します。

＜表－2＞館種別リニューアル博物館数と比率

人 文	美 術	自然史	理 工	動水植
85館 (43.1%)	30館 (15.2%)	20館 (10.2%)	30館 (15.2%)	32館 (16.2%)

※（ ）内は構成比

昨年度に比べて、美術（11館→30館／6.9%→15.2%）、自然史（13館→20館／8.1%→10.2%）、動水植（25館→32館／15.6%→16.2%）が館数、比率ともに増加しました。特に、動水植は、過去4カ年の傾向を見ても館数、比率が年々増加しています。一方、理工（36館→30館／22.5%→15.2%）は、館数、比率ともに昨年度より減少しました。

＜表－3＞設立主体別リニューアル博物館数と比率

国	都道府県	市・区	町・村	法 人	個人その他
17館 (8.6%)	27館 (13.7%)	66館 (33.5%)	20館 (10.2%)	57館 (28.9%)	10館 (5.1%)

※（ ）内は構成比

昨年度に比べて、市・区（49館→66館／30.6%→33.5%）、国（10館→17館／6.3%→8.6%）、法人（45館→57館／28.1%→28.9%）が館数、比率ともに増加しました（個人・その他もわずかに増加）。特に、市が増加しているため、市町村合併後の影響がこの増加傾向の要因の一つと考えることができます。

＜表－4＞開設年代別リニューアル博物館数と比率

～1950年代	1960年代	1970年代	1980年代	1990年代	2000年代
15館 (7.6%)	15館 (7.6%)	24館 (12.2%)	57館 (28.9%)	58館 (29.4%)	28館 (14.2%)

※（ ）内は構成比

昨年度に比べて、1950年代以前（10館→15館／6.3%→7.6%）、1990年代（44館→58館／27.5%→29.4%）、2000年代（18館→28館／11.3%→14.2%）が館数、比率ともに増加しました。特に、2000年代は、過去4カ年の傾向を見ても館数、比率が年々増加しています。

2005年度リニューアル博物館一覧表

●増改築

アウシュヴィツ平和博物館 【福島県白河市】／2005年7月 2005年3月からの増設工事によって、新展示室「アンネフランク・ギャラリー」をオープン。同館では、移転開館当初から展示スペースが狭く、大人数の見学者に対応できないため、展示スペースの増築を計画。新展示室では、アンネフランク財団（オランダ）から版權を取得した関連写真をはじめ、世界各国で出版された「アンネの日記」約30冊や、1952年に日本で初めて紹介された日本語版「アンネの日記」の初版本「光りのほかに」などの関連資料を展示。併せて、アウシュヴィツ関連ビデオの上映を行うビデオ室を整備
横浜市立岡門小学校附属海水水族館 【神奈川県横浜市】／2006年3月 改修・拡張工事を行い、「まかどシーマリナパーク」としてオープン（約2倍の広さに拡張）。既存の水槽はそのまま残し、併設されていた資料室を新たに改修して、1クラスの児童が1度に学習することができる広さを確保。新しく拡張した部屋には、疑似岩に覆われた「タッチング水槽」などを設置。天然記念物のミヤコタナゴをはじめ、アオギスやホシザメなど、魚の種類も充実（約50種、300匹）
よしもとおもしろ水族館 【神奈川県横浜市】／2005年7月 子ども向け施設「よしもと赤ちゃん水族館」をオープン。「赤ちゃん」をテーマに、水生生物の稚魚や卵など、約100種類、5,000匹を展示。館内は「幼稚園の教室」をイメージした内装にしており、実際に登ることのできるジャングルジムや滑り台型的水槽を設置したり、子どもの視線でも楽しめるように通常より低い位置（高さ90cm以下）に水槽を設置。館内は土足厳禁で、小さな子どもたちが裸足で遊び回ることができるなど、子どもの目線に立った施設づくりを展開
天領出雲崎時代館・出雲崎石油記念館 【新潟県出雲崎町】／2005年4月 施設の老朽化などを理由に、「出雲崎石油記念館」を移転・新築。「天領出雲崎時代館」に併設される形で新たにオープン。出雲崎の石油掘削の歴史を様々な映像やロボットなどを用いて展示。ろうそくや行灯の明るさを実際に比較することができる体験装置や自動解説機能を新たに備えるなど、わかりやすく楽しむことができる展示へとリニューアル。また、2階に多目的ホール（研修室）を整備するとともに、館内に新たにエレベーターを設置
富山市大山歴史民俗資料館 【富山県富山市】／2005年11月 展示スペースや資料庫、研修室などの増改築工事を実施。また、高齢者や障害者の利便性を考慮し、展示室は1階部分のみとし、トイレも増設。展示内容の一新を図り、地域の文化財と山岳関係資料、常願寺川治水の歴史、大山地域で発見された恐竜化石や旧有峰村の生活などを紹介した3つのコーナーで構成。タッチパネル式の情報端末や映像などを充実させることにより、楽しみながら学ぶことができる展示を展開

高森町蘭植物園 【蘭ミュージアム・高森】【長野県高森町】／2005年12月 観賞温室の西側に原種棟を増築。それまで観賞温室内に展示していた蘭の原種を移動し、アジア、オーストラリア、アフリカ、中南米の各地域に分けて展示するとともに、一目でその種の生態がわかるように自生地を再現した展示を実施。併せて、駐車場も整備。なお、今回の施設整備費の大半は、町内の中小企業の資金調達を支援する地域ファンド会社（町内企業15社が出資してつくった「アルプス・トラスト・ファンド社」）が少人数募債を発行し、住民が購入することによって工面された
浜松市楽器博物館 【静岡県浜松市】／2005年7月・2005年11月・2006年3月 2006年3月、隣接していた産業情報室の移転を機に、増床・改装工事を行い、展示室を拡張（展示面積は30%増加、展示資料の数も20%増加）。世界各地の楽器を音楽文化園別、テーマ別に展示。また、鍵盤楽器の部屋や実物の楽器に自由に触れることができる体験ルーム（2005年11月先行オープン）の整備、展示品の音や解説を聞くことができるイヤホンガイドの貸し出し、液晶モニター付きヘッドホンによる楽器の演奏風景と音の紹介、邦楽器の情報検索システムの整備なども実施。展示、解説、体験、情報提供機能を強化し、「みる」展示、「きく」展示、「ふれる」展示の充実を図る。2005年7月には、展示室内にあったミュージアムショップ「アンダンテ」をエントランス（受付前）へ移転
らんの里堂ヶ島 【静岡県西伊豆町】／2006年3月 中心施設である「オーキッドフォーラム」の増床など、園内施設の改修・改装を実施。観賞温室「オーキッドフォーラム」の展示面積や「エントランスショップ」の面積を増床。また、メインエントランスにおけるファサードサインの設置やフードショップの充実なども実施。2005年10月に、農事組合法人堂ヶ島洋らんセンターから施設運営を引き継いだ（株）日比谷アミューズメントプランニングがリニューアルを実施。フラットな展示スペースの実現など、高齢者や身障者が利用しやすい施設整備を図るとともに、来園者とのコミュニケーションや来園者へのサービスに重点を置いた運営を展開
豊橋市二川宿本陣資料館 【愛知県豊橋市】／2005年4月 資料館に隣接して、復元した旅籠屋「清明屋」をオープン。2000年に寄贈を受けた江戸時代後期の旅籠屋の建築様式を残す「清明屋」を2002年から3カ年かけて改修復元。大名が利用した本陣と一般庶民が利用した旅籠屋をセットで見学できる施設は全国初。併せて、資料館の増改築を行い、増築棟に企画展示室や収蔵庫などを整備するとともに、既設資料館の企画展示室を講義室へと改修。また、開館後初めて、常設展示の一新を図り、映像や体験することができる展示物を増やすことで、楽しみながら学ぶことのできる展示内容に改装
三重中央農協郷土資料館 【三重県津市】／2005年12月 既存の資料館建物を取り壊して駐車場にするとともに、農業倉庫を改修して新しい資料館を整備。以前は展示室兼収蔵庫的な施設であったため見学しにくかった点を解消。生活用具資料、一志町内の歴史資料、養蚕・製糸資料、農林業資料ごとに展示室を整備

新見美術館【岡山県新見市】／2005年12月
開館15周年を迎え、収蔵品の増加に伴い、1階部分を拡張して第2収蔵庫を整備。新たな収蔵庫の壁には、美術品の保存に適した環境を保つための最新素材を使用。100号程度の大きな作品を収蔵することができる環境を整備
やかげ郷土美術館【岡山県矢掛町】／2006年3月
開館以来の大規模な改修工事を実施。収蔵品の増加によって手狭になった収蔵庫の増設をはじめ、常設展示室の空調整備の更新、壁様の塗装の塗り替えなどを実施。また、2階研修室を利用する高齢者に配慮して、エレベーター（1基）を導入
なぎさ水族館【山口県周防大島町】／2006年3月
隣接する旧食堂棟（平屋建て）を展示室に改修し、それまで2階部分にあった展示を移設。車椅子利用者も見学することができるように通路を広げるなど、展示スペースを約1.5倍に拡張。2階では、以前から人気の高いタッチングプールを約1.5倍に拡大。ナマコやヒトデなどの磯の生物に触れることができる開放型の水槽も新設
出光創業史料館【福岡県北九州市】／2005年11月
出光興産（株）の創業者である出光佐三の生誕120年（2005年）と同社創業95周年（2006年）を合わせて記念して増築を実施（同館は、出光美術館（門司）と同じ敷地内に同時に開設）。東京・丸の内の本社から出光佐三の執務室を移設するなど、展示内容を大幅に改装
長崎ペンギン水族館【長崎県長崎市】／2006年2月
コガタペンギン専用の飼育展示場「コガタペンギンゾーン」をオープン。飼育展示場は増築整備した建物の2階に設置。プールだけでなく、砂浜や草むらを作るなど、コガタペンギンが生息するオーストラリア南部の海岸を再現。また、同展示場の隣には「ペンギングッズ・ギャラリー」をオープン。兵庫県西宮市在住のペンギングッズコレクター・永井憲三氏が長崎市に寄贈した約3,800点のグッズのうち約750点を展示

●新施設増設

旭川市旭山動物園【北海道旭川市】／2005年8月
2種類の動物を同居させる、混合展示施設「くもごる・かびばら館」を新設。自然に近い環境を再現するために、分布が同じ両動物を一緒に飼育。アマゾンの密林をイメージしてジャングルジムのように組まれた高さ7mの鉄柱が中央にそびえ、周りにはカピバラ用のプールを整備
帯広市おびひろ動物園【北海道帯広市】／2005年4月
ウサギやモルモット、ヤギ、ヒツジ、ミニチュアホースなどと触れあうことができる動物舎「ちびっこふぁーむ」を新たに整備
帯広百年記念館【北海道帯広市】／2005年11月・2006年1月
2005年11月、「埋蔵文化財センター」を分館として設置。市の独身寮を改装して同センターに整備し、帯広市内から出土した約80万点の遺物を保管（一部の遺物を展示）。2006年1月には、本館内（埋蔵文化財センター跡）にアイヌ民族文化情報センター「リウカ」を新たに設置。十勝地方を中心としたアイヌ文化に関する書籍や音声・映像資料などを閲覧・鑑賞することができる環境を整備
釧路市動物園【北海道釧路市】／2005年7月・2005年8月
開園30周年記念事業の一環として、北方の希少な動物たちを自然のままに見ることができるよう「北海道ゾーン」の拡充リニューアルを実施。2005年7月には、フクロウが頭上を飛び交う姿を見ることができるよう「ふくろうの森」がオープン。併せて、同ゾーン入口にゲートを設置。また、2005年8月には、ヒゲマ観察施設に観覧窓を設置したり、アオサギの観察デッキなどをオープン。予定していたリニューアル整備は全て完了
むかわ町立穂別博物館（旧：穂別町立博物館）【北海道むかわ町】／2005年4月
博物館に隣接して、「中村記念館」をオープン。建物は、穂別開拓の先駆者といわれる中村平八郎が大正時代に建てた住宅で、国の登録有形文化財。町民が利用しやすいように、同館に隣接した形で移築復元。館内には中村家が使用した調度品や生活道具など、資料を多数展示
鐘崎ベル・ファクトリー【宮城県仙台市】／2005年4月
（株）鐘崎本社隣接地に、仙台七夕の歴史・文化を紹介する「七夕館」をオープン。これに併せて、敷地内の一連の施設群（他に笹かま館、食品館）を「鐘崎ベル・ファクトリー」と総称。七夕館では、正八面体の建物内に巨大な仙台七夕や大正時代から現代までの七夕飾りを展示したり、光や音、映像による幻想的な展示を展開。併せて、笹かま館、食品館も一部リニューアルを実施。笹かま館では、昭和初期の店舗をイメージした「鐘崎かまぼこ塾」（製造・販売スペース）を新設したり、3Dシアターを改修整備
東北サファリパーク【福島県二本松市】／2005年4月
新たな展示館「アザラシ館」をオープン。アザラシ館ではプール状の主水槽に加え、観覧スペースに直立する円柱水槽を設置。円柱水槽が天井と床下を通して上下の主水槽につながっているため、水中のアザラシの動きをあらゆる角度から観察することができる行動展示方式を採用。また、水面からしか観ることができるよう屋外の観覧施設を整備
ふくしま海洋科学館（アクアリンふくしま）【福島県いわき市】／2005年7月・2006年3月
開館5周年を記念して、2005年7月、同館南側屋外の水盤部（親水公園）に、田んぼや小川、沼など、昔懐かしい里地の水辺の環境を再現した「BIOBIOかっぱの里」と、全国的に減少している干潟を再現した「JUBJUBひがた」の2つのビオトープを造成。また、2006年3月には、好評を博した企画展「おもしろ魚展」を新たに常設展として整備。全体のテーマやディスプレイ上の変更などを施した上で、キッズアクアリウム「いろいろ水族館」としてオープン。楽しみながら観察することができる特殊水槽2基を追加（合計12基）するとともに、靴を脱いで遊ぶことができるスペースを増設
壬生町おもちゃ博物館【栃木県壬生町】／2005年7月
開館10周年を記念して、同館北側に2階建ての別館を新設。1階はイベントなどを開くための多目的ホール「わくわく夢広場」に、2階は鉄道模型とジオラマを置く「鉄道模型の部屋」に整備。「鉄道模型の部屋」では愛好家が持ち寄った貴重な電車の模型などを展示。また、鉄道模型を自由に運転することができるようにしたジオラマ（世界遺産をテーマにした巨大ジオラマ）は愛好家が同館に寄贈
埼玉県こども動物自然公園【埼玉県東松山市】／2005年4月
2004年12月から工事を進めていた新飼育展示場「ミニアキヤット舎」をオープン。透明の亚克力板で囲まれた飼育舎内にはアリ塚を模した山が2つ立ち、その周辺をミニアキヤットが動き回る姿を観察することができる。観覧通路が放飼場に食いこみ形になっており、見学スペースの足元にはミニアキヤットが通るトンネルを設置。アメリカのブロンクス動物園の展示をモデルにリニューアル
東京農業大学「食と農」の博物館【東京都世田谷区】／2005年8月
博物館に隣接して、バイオリウムをオープン。東京農業大学育種学研究所を前身とする（財）遺伝生物学研究所が世界中から収集した約200種の動植物を展示。動物エリアと植物エリアが同居する温室空間として整備。また、バイオリウム内にはミュージアムショップも設置

金沢21世紀美術館【石川県金沢市】／2005年4月
敷地内に2つの茶室を移築整備（併せて、庭園整備も実施）。2005年4月から一般に茶室の貸し出しを開始。「松涛庵」は江戸時代末期に加賀藩13代藩主・前田斉泰の隠居所として建てられたもので、2001年に市が取得。今回の移築に伴い、バリアフリーでお茶を楽しむことができるように立礼席などを増築。一方、「山宇亭」は2002年に市に寄贈されていた
須坂市動物園【長野県須坂市】／2005年10月
モルモットやウサギと触れ合うことができる「ふれあいはうす」を新設。飼育員による手作りの獸舎「ふれあいコーナー」が老朽化したため、新しい獸舎を移転新築。動物たちのストレスを軽減するために、運動場を設けるなどの工夫を施している。車椅子利用者にも配慮
大垣市上石津郷土資料館【岐阜県大垣市】／2005年4月
南側の敷地に、展示室やマイクロフィルム閲覧室などを備えた新館を増設。展示室には、旗本・高木家関連の貴重な資料を中心に、6〜7世紀の牧田古墳群の出土品や関ヶ原合戦における烏津路を示すパネルなどを展示。マイクロフィルム閲覧室は、名古屋大学が所蔵する、木曾三川の水奉行を務めた高木家の治水関係資料（約10万点）のマイクロフィルムや紙焼きを閲覧することができるように整備
内藤記念くすり博物館【岐阜県各務原市】／2006年1月
本館の北側に隣接する敷地内に、付属図書館を設置。本館内図書室にあった書籍を移動し、2006年1月から一般公開を開始。図書館内は、医薬史に関する書籍（洋装本）を収める開架スペースと、貴重な和装本や資料を収める閉架スペースに分かれる。今回のリニューアルによって、閲覧室やセミナー室などの施設・設備が充実。創立者である内藤豊次の構想に基づき、図書館は本館南側にある展示館と左右対称の構造（外観）になっている。今回の図書館整備によって、開館当初から博物館の基本構想にあった建物は全て揃った
飛騨高山まつりの森【岐阜県高山市】／2006年3月
ギャラリー「森の画廊」と、併設の喫茶コーナー「茶房あらんや」をオープン。「森の画廊」では、高山市出身の日本画家・日影圭氏の作品約20点を常設展示
大阪・海遊館【大阪府大阪府】／2005年7月
開館15周年を記念して、エントランスビルの4階に特別企画展示スペース「海遊館ギャラリー」をオープン。それまでできなかった大規模な特別企画展示や長期間（6か月以上）にわたる特別企画展示が可能になった。また、バリアフリーを目的としたエレベーター（2基）の増設（エントランスビルに設置）なども併せて実施
関西大学博物館【大阪府吹田市】／2005年4月・2006年3月
2005年4月、新たな文化遺産学の研究・教育の拠点として「なにわ・大阪文化遺産学研究センター」を開設。大阪府下における公私の博物館・資料館・顕彰会・NPO団体などと積極的に連携することで、21世紀の大阪における文化資源の活用をめぐる将来像や文化遺産を核とした地域再生の途を提示することを目的に据えている。2006年3月には、博物館収蔵庫跡地に「なにわ・大阪文化遺産学研究センター」棟が竣工
紀の川市歴史民俗資料館【和歌山県紀の川市】／2005年10月
資料館の隣に、収蔵庫と体験教室を兼ねた施設として「歴史体験館」を整備。主に埋蔵文化財を整理・収蔵する役割を果たしており、地元小学校などから要請がある時のみ開放
華鶴大塚美術館（旧：華鶴美術館）【岡山県原市】／2005年10月
開館10周年記念事業の一環として、茶室「長庵」を新設。茶道上田宗箇流第16代家元・上田宗嗣氏の指導・監修により、流祖・上田宗箇の茶風を伝える古文書「宗箇様御問書」をもとに、宗箇好みの四畳半茶室を復元
福山市立動物園【広島県福山市】／2005年11月
ペンギンゾーンを新たに整備。ペンギンゾーンは屋外展示と屋内展示に分かれ、屋外展示では南米に生息するフンボルトペンギンの、屋内展示では南極大陸に分布するジェンツーペンギンの様子を観察することができる。観覧者が水中を泳ぐペンギンの姿をアクリル製の壁面越しに見ることができるように設計
小豆島尾崎放哉記念館【香川県土庄町】／2005年8月
記念館から離れた、土庄町立中央図書館隣地に「尾崎放哉資料館」を開設。開館して10年以上が経過し、収蔵資料が充実したことに伴い、放哉直筆句稿274点などの貴重な資料の収蔵庫となる施設を新たに整備。土蔵をイメージした外観の資料館に設けられた展示室には、放哉が小豆島で過ごした期間に残した直筆資料の一部などを展示
地中美術館【香川県直島町】／2005年5月
クロード・モネが愛したフランス・ジヴェルニーの私庭をイメージした「地中の庭」をオープン。駐車場から美術館に向かう町道沿いの敷地に、傾斜に沿って4段の池を整備。池の周辺には、マリリスやマーガレットなど、モネが描いた作品や資料などを調査し、選定した約150種の草花と約40種類の樹木を植栽
到津の森公園【福岡県北九州市】／2005年11月
到津遊園時代の日施設「鳥の楽園」を改修整備し、1936年の建築当初の名称に因んで「子ともホール」としてオープン。1・2階は、団体の入退園口や集合同所、休憩場所、雨天時の昼食場所として機能。一般客の休憩所や幼児の室内遊び場にも活用している。3階には、同公園の現在までの歴史を懐かしい写真とともに紹介するコーナーや、市民ボランティアの活動を紹介するコーナーなどを設けた展示場を新たに設置。市民の企画・出展による展示コーナーとしても利用可能。スロープや多目的トイレを設置するなど、バリアフリー化に配慮した施設整備を実施
微古館【佐賀県佐賀市】／2005年5月
同館北側に新収蔵庫を整備。それまでの収蔵面積の約3倍の広さを確保。施設内には図書収納スペースも整備。外熱及び湿度を遮断するために、外壁と内壁の間に空気層を設けたり、断熱材も屋根部分は内外から使用、さらに内装材には珪藻土の壁材を使用するなど、資料の保存を第一に考えた、環境の良い収蔵庫整備を実現
吉野ヶ里歴史公園【佐賀県吉野ヶ里町】／2005年4月
環濠集落ゾーン「南内郭」（吉野ヶ里の「国」の支配者層が生活していた場所と考えられているエリア）に物見櫓4棟、堅穴式建物11棟をはじめ、集会の館や煮炊屋など、合わせて19棟の復元建物を整備。また、多目的利用が可能な公園スペースとして「祭りの広場」をオープン
小黒三郎組み木館　ズートピア【熊本県小国町】／2005年6月
組み木作りの体験工房「つちのこ工房」を増設。小黒三郎氏のデザインシートを基に、糸鋸機を使って板をくりぬき、好きな色に色付けすることができる。本館と「つちのこ工房」をつなぐ廊下には「遊びのコーナー」（バズル遊び）を設置。また、受付付近には「つちのこ文庫」を設置。同氏の著書や関連本に加え、組み木の本、絵本、児童書など、多数の本を読むことができる。活動・運営主が変わったのを機に、今までの商品販売店舗的なイメージを変え、組み木博物館を目指していることが来館者にもわかるように整備を実施

熊本市動植物園〔熊本県熊本市〕／2005年4月
園内南側の敷地に、動物ふれあい広場「タッチ愛ランド」を新設。「人の暮らしと動物のかかわり」をテーマに、「見る、触る、遊ぶ」という感覚を体験することができる施設としてオープン。1994年に「サンアントニオ・パイオニア・キャビン」（この広場のシンボル）を設置した経緯から、アメリカ西部をイメージした空間を整備。ウサギ、ヒツジ、ボニーなどに触れることができる「ふれあい体験ゾーン」と「遊び体験ゾーン」で構成。「ふれあい体験ゾーン」には「肥後五鶏舎」や「野鶏舎」、多目的室などを設置。また、「遊び体験ゾーン」には、アクルドームを設置したプレーリードッグ舎をはじめ、「とりで遊具」や「体感遊具」を設置
森の空想ミュージアム〔宮崎県西都市〕／2006年3月
高見館長が収集した仮面約300点の中から約100点を展示する「九州民俗仮面美術館」をオープン。かつて社会福祉法人「石井記念友愛社」の子どもたちが暮らしていた建物を「手づくりミュージアム」方式で改装。地域の芸術家や住民たちがボランティアとして加わり、手作りで完成。中世から江戸中期の資料を主に、「神楽面」などの「芸能仮面」と神社の守護神として奉納された「王面」を中心とした「信仰仮面」などに分類して展示
児玉美術館〔鹿児島県鹿児島市〕／2005年10月
開館20周年を迎え、新館を増設。100号以上の作品を展示することができる絵画展示室や陶磁器展示室、喫茶のできる読書研修室などを整備。新館は、自然光を多く取り入れた構造が特徴で、自然と一体化する施設づくりを実施。絵画展示室の下（足下）を小川が流れ、展示室中央には天井まで高さ7mに及ぶガラス張りの「光庭」を配置。館内の段差をなくし、車椅子や人工肛門、人工膀胱の人が利用しやすいトイレを設置するなど、バリアフリー化を実施。また、旧館の一部を改装し、地元出身の洋画家・大高禮造の自宅アトリエの一部を移設・再現するとともに、木工作業室や旧館と新館をつなぐ通路（ギャラリー空間として活用）なども整備

●館内全面改装

池田町ブドウ・ブドウ酒研究所（池田ワイン城）〔北海道池田町〕／2005年4月
2年間の全面改修工事を終え、1階の瓶詰めライン工場が観光スペースとしてリニューアル。特産品販売コーナーやワイン販売コーナーなどが設けられた「ショッピングエリア」、ワイン製造やブドウ栽培などに関する「展示ルーム」、インフォメーションセンターなどを新たに設置。また、2階にはセミナールームを新設。「五感に訴える観光」をテーマにソファ面の充実を図っている
中山峠写真の森美術館〔北海道喜茂別町〕／2005年7月
2003年に閉館した中山峠森の美術館が「中山峠写真の森美術館」としてリニューアル。スペシャルギャラリー（4室）では道内の一線写真家4人の作品展を実施。1階には4つの一般公募写真ギャラリーを設け、プロアマチュアなどに無料貸出。他には、DVDシアターをはじめ、観光案内所「喜茂別iセンター」、シーニックバイウエイ制度を紹介する展示室、ティーラウンジ、ミュージアムショップを整備
日鉱記念館〔茨城県日立市〕／2005年10月
日立鉱山開業100周年記念事業として、本館を中心に改装を実施。設備や展示物の全体的な見直しを図る。写真やビデオの活用によるビジュアル化を進めるとともに、館内のバリアフリー化にも取り組む。「日立の大煙突」コーナーや映像スペースを新設。模擬坑道では、本物の鉱石を手にとることができる「鉱石実感コーナー」を設置
古代オリエント博物館〔東京都豊島区〕／2005年9月
館内の内装や展示内容、解説パネル、展示キャプション、ショップレイアウトなどの大幅な改装を実施。展示室では、今回の改装に伴い展示物が充実。アプローチ空間からフロアに至るまで、床や壁面などの張り替えを行い、イメージの一新を図る
三宅島自然ふれあいセンター・アカコッコ館〔東京都三宅村〕／2005年7月
2000年9月の全島避難による一時閉館からの運営復旧、及び施設の復旧が完了し、再オープン。再開にあたっては、施設の改修とともに、2000年6月の噴火以降、火山活動の影響を受け続ける自然の解説や、同館の環境教育顧問を務め、2004年に亡くなった海洋生物学者ジャック・モイヤーの功績を紹介するコーナーを設けるなど、展示内容を拡充した

富山市郷土博物館（富山城）〔富山県富山市〕／2005年11月
2003年6月から行った全館耐震改修工事の実施に伴い、内装や展示内容の全てをリニューアル。「富山市博物館基本構想」に基づいて、富山城の歴史を紹介する専門博物館として新たに整備（以前は2、3階で展示していたが、2階に展示を集約）。展示テーマを「富山城ものがたり」とし、中世、近世、近現代と時代を分け、約460年にわたって富山城の歴史を辿ることのできる展示を開催。富山城に関するミニ企画展を随時開催することができる企画展示室も整備。また、エレベーターや多目的トイレを設置するなど、施設のバリアフリー化も図る
鯖江市越前漆器伝統産業会館（うるしの里会館）〔福井県鯖江市〕／2005年4月
越前漆器伝統産業会館が全面改装し、愛称「うるしの里会館」としてオープン。1980年に建てられた旧施設を改修するとともに、「職人工房」を増設。回廊式に中庭を巡る順路に沿って、越前漆器の伝統技術から先端技術までがわかる展示を整備。和紙人形で作業工程を紹介する常設展示では、展示台を特に低くして、子どもや車椅子利用者にも見やすいように配慮。また、多目的ホールや研修室、体験工房、情報ライブラリーを整備するなど、多様で自由な活動のできる空間構成を計画
松本市立博物館付属機関 重要文化財田沼智学校〔長野県松本市〕／2005年8月
移築後40年が経過し、劣化による傷みが激しかったため、大規模な保存修理を実施。屋根瓦、天井、外壁などの修理とともに、漆喰の塗り直しや、八角塔窓枠を移築当時の色に近づけるなどの復元工事を実施。また、常設展示の内容を一新し、外観・内観ともに大規模な修理を終えた「建物」を見せる」ことをコンセプトに据えた展示を構成

豊田地域文化広場　こども体験館〔愛知県豊田市〕／2005年4月
豊田地域文化広場内のおもちゃの科学館が全面改装して、「こども体験館」としてオープン。1981年に設けられた「おもちゃの科学館」では、乗り物の展示や視覚的な装置など、「見る展示」が多かったのに対し、「こども体験館」では、展示物や遊具類を、子どもたちが頭と体を使って楽しく体験することができるものへとリニューアル。1階には「ちびっこひろば」「おはなしひろば」「おもちゃひろば」「ものづくりひろば」を、2階には「わくわくひろば」「おもちゃギャラリー」を整備
立命館大学国際平和ミュージアム〔京都府京都市〕／2005年4月
展示規模の拡大とともに、展示内容や展示・解説手法などの見直しを図り、リニューアル。常設展示室（地階）「戦争と平和の歴史」では、満州事変から湾岸戦争までを描いていた展示から、日清戦争からイラク戦争までの展示へと展示範囲を広げた。子どもたちの興味がふくらむ「きっかけ」をもたらす展示手法や音声解説ガイドの導入なども実施。1階には新たに「国際平和メディア資料室」を整備。平和に関する書籍や雑誌、DVDなどの豊富な資料を閲覧することができる。2階には「平和をもとめて」をテーマにした常設展示室を新設。「暴力と平和を考える」などをテーマにした3室からなる「①平和創造展示室」、長野県上田市にある美術館「無言館」の京都分館となる「②いのちの画室（アトリエ）」、「③平和ギャラリー」、「④ミニ企画展示室」で構成

神戸海洋博物館〔兵庫県神戸市〕／2005年4月
「海から、港から、神戸が始まり、未来に船出する」をコンセプトに、展示物の再編・集約を図り、展示室や老朽化した設備などを改修。展示室は従来の半分に縮小。新たな展示は、現在から未来の船や神戸港を紹介する「現在から未来の神戸港」と瀬戸内海の交通の要衝として栄えた神戸港の歴史を紹介する「歴史から見た神戸港」のコーナーで構成。2階には3Dハイビジョンシアターを新設。空いたスペースには「震災10年　神戸からの発信」事業の拠点施設として「タイムズメリケン〜神戸からの発信館〜」（2005年8月末まで）を整備
鳥取県立大山自然歴史館〔鳥取県大山町〕／2005年7月
鳥取県立大山自然科学館を全面改修し、「鳥取県立大山自然歴史館」としてリニューアル。1階にあった視聴覚室を展示室に変えるなど、展示スペースを拡張。展示内容も見直し、4つの展示ゾーンで構成。1階は入口から「大山の誕生」「大山を仰ぐ」「大山に生きる」の順に展示を配置。大山の地質や歴史を紹介する映像や、のぞき穴から写真を見る仕掛け、ブナの擬木に耳を当てると大山の歴史をブナが語りかけてくる展示など、体感する展示手法を採用。2階は「大山とふれあう」をテーマに、鳥の剥製や昆虫の標本、植物の写真などを展示。一般市民に開放する企画展示室を新たに設置するとともに、2階には弓ヶ浜半島を見下ろせる展望テラスを整備
岡山市水道記念館〔岡山県岡山市〕／2005年4月
岡山市の水道通水100周年を記念して、国登録有形文化財の同館を全面改修し、体験型施設にリニューアル。「水の性質」「水道」「岡山の水」の3つをテーマに、「水と暮らしのゾーン」「サイエンスプレイランド」「シアター」を通じて、水の役割や大切さを楽しみながら学習することができる施設に整備。大型水鉄砲で水車に水を当て、回転した数を競う「アクアシューター」や水道管を利用した伝声管を設置するなど、来館者が楽しむことができる展示を展開

海の見える杜美術館〔広島県廿日市市〕／2005年9月
施設の老朽化などの理由で2000年から休館していた王舎城美術資物館が全面改修工事を終え、「海の見える杜美術館」としてリニューアル。自然光が入る吹き抜けを設けるとともに、日本三景・宮島を望む2階にテラスを造り、カフェを開設。美術品に描かれる日本古来の植物約200種を植えた「杜の遊歩道」を整備するなど、「文化と自然の融合した鑑賞の場」を目指している
土佐清水市立竜蔵展示館 海のギャラリー〔高知県土佐清水市〕／2005年4月
老朽化などを理由に取り壊しも検討されていたが、存続を呼びかけた市内外有志の努力が実り、再建が決定（全面改修工事を実施）。同館は、林雅子（2001年逝去）が設計した建物で、2003年には（社）日本建築学会及びDOCOMOMO Japanによって、後世に残したい文化遺産「日本におけるモダン・ムーブメントの建築100選」に認定されている。雨漏りのためシートで覆われていた天窓を修復し、自然光が展示空間を深海の雰囲気演出。館内には、展示など、様々なイベントに使うことができるオープンスペースを新設。1階には、林雅子と地元出身の洋画家・黒原氏（同館は黒原氏が収集した貝類などを收藏・展示する施設として開館）に関する展示（林雅子コーナー・黒原記念室）を設置
福地ダム資料館〔沖縄県東村〕／2006年3月
「遊び学べるダム資料館」をテーマに、展示改装を行うなど、施設全体の見直しを図り、リニューアル。団体対応やイベント対応など、フレキシブルな諸室利用を考慮した結果、多目的コーナー（PCコーナーなどを設置）とエントランスホール（「福地ダムと地域のガイダンス」展示などを展開）を一体的ゾーンとして整備。団体レクチャーや学習室、各種ワークショップ、企画展示などに活用。展示は「福地ダムと地域のガイダンス」以外に、「沖縄の水事情」「水源開発と福地ダム」「水源地域の特徴」で構成。水資源とダムをテーマに据え、パネルや模型、映像、音声などを駆使したわかりやすい展示を整備。併せて、資料館用駐車場までの道路も新たに整備

●展示室増設

哀愁テーマパーク土方・啄木浪漫館〔北海道函館市〕／2005年4月
NHK大河ドラマなどの影響による来館者増に伴って、「土方歳三函館記念館」の展示スペースを増やすとともに、展示物の充実を図る。以前はカフェテラスとして利用していた海側約50㎡のスペースを、開陽丸の艦内をイメージした「土方歳三と箱館戦争」の展示室に改装。拝観順路を改めて整備したため、混雑が解消された
北海道大学総合博物館〔北海道札幌市〕／2005年11月
北海道大学創基130周年記念事業の一環として、2階南側約600㎡を改修し、新しい常設展示をオープン。新しい展示のテーマは「ユニバーシティ・ラボ―知を生み出し伝承する―」とし、過去から現在に至る同大学における研究手法の移り変わりを紹介。2階の一面にはミュージアムショップもオープン。また、屋外における博物館活動を活性化させるため、旧理学部の建物の真横に「ミュージアムデッキ」を設け、「ミュージックinミュージアム」などのイベントに活用
余市宇宙記念館（スペース童夢）〔北海道余市町〕／2005年4月
コミュニケーションスタジオ（パソコンルーム）を改修して「宇宙食館」を新設。アメリカとロシアの宇宙食約40点や中国の宇宙食10点を比較展示。宇宙食の歴史、製造方法、審査基準などをパネルやパソコン、スクリーンなどで紹介。宇宙食の試食や販売も実施
白石・人形の蔵〔宮城県白石市〕／2005年8月
蔵の一部を改装して、太平洋戦争中に使われた日用品や兵士の所持品などを集めた「終戦の蔵」を新設。戦後60年を迎えた終戦記念日（8月15日）から一般公開。展示品は、特攻隊員の救命胴衣や召集令状、戦地に送られた慰問人形、生活用品の配給切符など約1,000点
群馬県埋蔵文化財調査センター〔群馬県渋川市〕／2005年5月
収蔵・展示機能を向上させ、公開活用する機会をより充実させるために既存の施設を改修し、収蔵展示室を整備。遺物収蔵庫として活用したスペースを一部改修し、展示スペースと準備室、写真資料収蔵室を確保。オープン展示を基本とし、観覧者が遺物による時代の変遷過程を理解することができるように配慮
土方歳三資料館〔東京都日野市〕／2005年4月
展示スペースを従来の3倍に拡大。今回の改装を機に、土方家伝来の十文字槍をはじめ、歳三が稽古に用いた天然理心流木刀、歳三が使用した鎖帷子、歳三の生家の復元模型など、十数点の資料が新たに展示に加わった

法務史料展示室〔東京都千代田区〕／2005年5月
1990年6月まで大臣室として使用されていた部屋を、法務省の広報発信を目的とした「メッセージギャラリー」にリニューアル。建築史料や「日本司法支援センター」及び「裁判員制度」に関する広報・啓発資料などを展示。壁は内部のレンガ構造がわかるように、創建当時のままにしてあり、配管の溝の跡や、仕上材の下地を取り付けるための木レンガ、型枠調整金物なども見ることができる
山梨大学水晶展示室〔山梨県甲府市〕／2005年4月
収納施設（旧山梨大学水晶館）の老朽化に伴い、展示物の保全、防犯、整理などを目的に、事務局棟にガラス張りの展示室を新たに整備。同大所有の水晶コレクション約130点を展示。それまでは防犯上の問題などから公開する機会が少なかったが、新施設を整備したことにより、一般公開を促進

大阪大学総合学術博物館【大阪府豊中市】／2005年7月
新たな展示空間として、史料準備館（待兼山修学館）1階を改修整備し、一般公開を開始。サテライト展示として「待兼山グリーンゾーン案内」を設置し、待兼山周辺の植生などについて解説。また、旧制高校時代の教材として使われていた小動物の剥製・骨格標本や化石標本、波没標本、考古学の模型標本や人形標本などを展示。2004年にリニューアルした共通教育本館（イ号館）1階とともに同館展示室として機能
石の花・華の博物館 玄武洞ミュージアム【兵庫県豊岡市】／2006年1月
豊岡かばん産業の原点となった杞柳細工を集めた「豊岡杞柳細工ミュージアム」を新設。倉庫として使用していた3階部分を改装して整備。江戸時代から現代に至るまでの様々な杞柳細工を年代順に並べ、当時の時代背景を示したパネルとともに展示。それまで杞柳細工を展示していたコーナーには山陰海岸国立公園に関する展示を配置
UCC コーヒー博物館【兵庫県神戸市】／2005年4月
UCC上島珈琲（株）の歴史を紹介する展示室「UCCヒストリー」を新設。創業当初から現在までの出来事や主な商品、テレビCMなどを時系列で紹介。それまでは企業色を打ち出さずに、コーヒーそのものの歴史が展示の中心であったが、「会社のことも知りたい」という来館者の要望を受け、新たな展示を設置
しらかべ学遊館【山口県柳井市】／2006年3月
柳井や近隣の地域で青年期を過ごした文豪・国木田独歩の展示コーナーをオープン。国木田独歩に縁のある人からの寄付金を基に、学習室兼図書室内に開設。同市図書館や町並み資料館にあった独歩関連資料の一部を集め、展示
愛媛県立博物館【愛媛県松山市】／2005年4月
2005年3月末に閉館した愛媛県立歴史民俗資料館（愛媛県立博物館と同じ、県教育文化会館内の施設）の考古第1展示室の空間を活用し、「世界の動物と昆虫」をテーマにした常設展示を行う「第3展示室」を新設。既存の第1、第2展示室に加えて新たな展示室を開設。世界各地から収集した動物剥製や昆虫標本約1,000点を展示。また、既存の資料室に加えて「資料室2」を設置（収蔵部門の増設）
照国文庫資料館【鹿児島県鹿児島市】／2005年12月
展示スペースを約2倍に拡張。鎌倉時代から続く島津家の歴史を紹介する映像展示「海を見ていた島津家と薩摩」など、観覧者にとってわかりやすい展示を整備。館内は「島津重豪の文教政策と博物学」「薩摩藩の財政改革」「国際視野の形成」「島津斉彬公の御事蹟」「島津斉彬公の人となり」のテーマ展示で構成。企画展を行うスペースも整備

●展示室改装

小樽水族館【北海道小樽市】／2006年3月
既存のネズミイルカ飼育プールを、ネズミイルカとゴマフアザラシが共生する「ネズミイルカとゴマフアザラシのほのほのプール」に改修。「自然の再現」をテーマにリニューアル。プール外周には、肘をかけた状態で観覧することができるように手すりを整備。イルカの怪我防止やアザラシの休息などにも配慮した整備を実施
札幌市青少年科学館【北海道札幌市】／2005年4月
デジタルプラネタリウム機能付きの全天周映像投影機を導入した最新鋭のプラネタリウムをオープン。10万個以上の星を映し出し、空気の揺らぎによる瞬きなども表現することができる装置を採用。スクリーンを張り替え、座席（240席→200席）は前後の間隔を広げることによってゆったり座れるように整備
札幌市円山動物園【北海道札幌市】／2005年4月・2005年11月
2005年4月、開園55周年を記念して「こども動物園」をリニューアル。「総合動物館」を改修するとともに「ふれあい教室」（モルモット舎併設）を新設。「総合動物館」では動物の生態を学ぶことができ、「ふれあい教室」では天候に左右されことなく小動物と触れあうことができる。2005年11月には、種の保存に関する拠点施設として動物病院を新設。1992年に施行された獣医療法に定められた基準に合致する構造設備を備えることにより、感染防御や検疫強化などを図るとともに、幅広い年齢層を対象とした環境教育を行う場所としても活用。ガラス窓越しに動物の治療を見学することができる診察・手術室を設置
苫小牧市科学センター【北海道苫小牧市】／2005年11月
2階展示室に、宇宙に関する体験型展示などをそろえた「宇宙コーナー」を新設。それまで展示されていたロシア（旧ソ連）の宇宙ステーション「ミール」の予備機に加え、宇宙をより身近に感じることができる新たな展示物を配置
北海道立文学館【北海道札幌市】／2005年11月
開館10周年を記念して、常設展示室をリニューアル。北海道における文学、詩、短歌、俳句、川柳などの歩みがわかるように時系列で資料を展示。展示資料の数をそれまでの3分の2程度にして、観覧者にとってわかりやすい展示となるように整備。また、フリースペースに本棚を置き、活躍中の作家たちの作品を自由に読めるように配慮
岩手大学ミュージアム【岩手県盛岡市】／2005年4月
展示主題の一つである「北上川とその流域の豊かな生活環境を目指して」を「リモートセンシング研究と岩手大学」というテーマに変更し、展示替えを実施。ランドサット衛星が2002年4月に観測した岩手県の画像を印刷したタイルや、東北地方の立体地図模型などを展示
東北大学史料館【宮城県仙台市】／2005年4月
常設展示「歴史のなかの東北大学」をリニューアル。「東北大学のあゆみ」と「東北大学の包摂校もひとつの源流」のコーナーで構成。創設時から現在に至るまでの百年の歩みを、写真や史料を用いてわかりやすく紹介
太太鼓の館【秋田県北秋田市】／2005年10月
従来の資料館的な性格を一新し、太鼓本来の持ち味である音を楽しむ体験型施設としてリニューアル。展示されている世界40か国、約140個の太鼓のうち、約半分の太鼓を叩くことができるように整備。「世界の太鼓ミュージアム」ではレイアウトを変更し、新たな展示コーナーを設置。国内外の太鼓の音を聴いたり、演奏の様子を見ることができる音声・映像装置を新設。太太鼓展示ホールには、太太鼓の打ち手が叩く位置まで上がることができるタラップを設置。映像ホール「体感ゾーン」では、「綴子神社祭典」の太太鼓奉納の様子が150インチ大型スクリーンに映し出され、太太鼓の演奏の迫力を体感することができる
黒淵地すべり資料館【山形県戸沢村】／2005年10月
展示内容の充実を図り、総合学習などに有効活用できる施設としてリニューアル。従来の地すべり対策関連資料に、最上川流域の自然や川とともに営まれてきた人々の暮らしや文化に関する資料などを新たに加えた。1階には、地域の人々の展示や学習の場として活用することができるコミュニケーションスペースを設置
郡山市ふれあい科学館（スペースパーク）【福島県郡山市】／2006年3月
展示ゾーンに「びっくり実験ラボ」をオープン。サイエンスショーやサイエンススタジオなどの会場として活用する空間を新たに整備。展示物を移設し、ステージや音声・映像システム、机、椅子、収納スペースを備えた空間を整備。また、幼児が安全に遊ぶことのできるクッション敷きのスペース「キッズプレイス」を展示ゾーン内に新設

茨城県フラワーパーク【茨城県石岡市】／2005年5月・2005年6月・2005年10月・2006年1月
2005年5月、香りのバラ園、殿堂入りバラ園、人名品種バラ園などを整備。2005年6月にはハーブ園を整備。2005年10月にはインフォメーションコーナーを新設。2006年1月にはレストランを改修
KEKコミュニケーションプラザ【茨城県つくば市】／2005年9月
高エネルギー加速器研究機構（KEK）は、研究本館にある展示室を改装し、「KEKコミュニケーションプラザ」としてリニューアル。加速器が動く仕組みや素粒子について学んだり、宇宙から降り注ぐ宇宙線を観察することができる新たな展示装置や科学おもちゃなどを設置。シアターコーナーでは、Belle測定器で得られた素粒子反応のコンピュータ解析画像やKEKの紹介ビデオを上映。市民との積極的な交流の場を目指し、展示機能を充実
つくばエキスポセンター【茨城県つくば市】／2006年1月・2006年3月
2006年1月、1階展示場に「見たい!知りた!原子力」コーナーを新設するとともに、2階展示場には、3Dシアターの上映機器と映像コンテンツを更新した「立体映像シアター」をオープン。2006年3月には、地域との交流や双方向コミュニケーションの促進を目的とした、「研究機関等紹介コーナー」と「自然・文化コーナー」で構成する「サイエンスシティつくば再発見」コーナーを新設
高根沢町歴史民俗資料館【栃木県高根沢町】／2005年6月
開館以来初めて、常設展示を全面的にリニューアル。第一展示室では、「ふるさと高根沢」をテーマに文化財を展示するとともに、同町発祥の「宇津救命丸」に関する展示コーナーを設置。今後も定期的に展示を入れ替えることで、新しい資料館イメージの構築を図る。併せて、収蔵庫として活用されている「長屋門」の改装を実施
TEPCO鬼怒川ランド【栃木県日光市】／2006年2月
老朽化した展示物を撤去し、子どもたちが触れながら遊ぶことのできる展示などを整備。地球環境をテーマにした体験ゲームコーナー「わくわくエコランド」をはじめ、IHクッキングヒーターや次世代給湯システム「エコキュート」などのオール電化住宅機器を体験することができる「電気と暮らしの体験コーナー」、電気教室などを行う「多目的ホール」を新設
栃木県子ども総合科学館【栃木県宇都宮市】／2006年3月
常設展示コーナー「生命の科学」をリニューアル。3つのテーマのうち、「生命の誕生」と「人間の思考と認知」のテーマに関する展示を改装。パネル中心の展示から、参加体験型の新しい展示へと変えることで、楽しみながら学ぶことができる環境を整備
栃木県立文庫館【栃木県宇都宮市】／2005年6月
2003～2004年度は休止していた常設展の内容を一新し、2年ぶりにオープン。新たな常設展は「栃木県の誕生」「市町村の歴史と地方制度」「下野農民の暮らしと工夫」「新収蔵資料紹介」の4つの内容で構成
尾瀬山の鼻ビクターセンター【群馬県品川村】／2005年6月
2004年7月から改装を進めてきた展示室をオープン。クマ、シカ、タヌキ、テンなど、周辺に生息する動物の剥製や毛皮、骨などの展示を充実させて、直接触れることができるように整備。また、尾瀬の代表的な動植物や尾瀬ヶ原、尾瀬沼の歴史などを紹介するタッチパネル式の情報展示システムを導入。野生動物の写真など、職員による手作りの展示を行うスペースも確保
群馬県立歴史博物館【群馬県高崎市】／2005年12月
群馬県による「旧官宮富岡製糸場」の世界遺産登録運動に合わせて、常設展示第5室「近代・現代」内に官宮富岡製糸場特設コーナーを設置。館内で別々に展示していた資料を一カ所に集め、模型・パネルを用いた展示や「富岡日記」の試聴コーナーなどを設置。コーナー全体を煉瓦模様の壁で囲み、“ミニ富岡製糸場”のように演出
スバルビジターセンター【群馬県太田市】／2005年4月
展示スペースを改装。1階展示ホールでは、「過去、現在、未来」をテーマに、世界ラリー選手権の競技車両や記録車、スバルの歴史を作った名車から開発中の未来車に至るまでの各車両を展示。2階は、富士重工業（株）の環境に対する取り組みや技術革新による最新システムの導入などを紹介する展示に一新。目玉は、実車同様に細部が動く車両骨格モデル
東武動物公園【埼玉県宮代町】／2006年1月・2006年3月
2006年1月、ヤギの飼育展示場を改修した「ヤギさんのアスレチック」をオープン。ヤギが寝ている部屋と屋外の放し飼いの間に丸太橋を渡し、階段を設置することで、ヤギに備わった運動能力を引き出し、本来の姿を見せる。2006年3月には、敷地を約3.5倍に拡大した新ペンギン舎をオープン。「ペンギンの大地に立つ」をコンセプトに、観覧者が展示場内中央を通り抜けることができる通路を整備するとともに、側面からしか観察できなかったプール足元に大型ガラスを設置
航空科学博物館【千葉県芝山町】／2005年4月
動くものとしては世界最大となる、ジャンボ機模型（8分の1サイズ）の展示を新設。模型の機体全体を見渡すことができる位置に、実物大のコックピットを設置。実際に操縦を体験することができ、操作に合わせて模型の機体が動くので、普段見ることのできない翼の動きや車輪の格納までを確認することができる
千葉県立上総博物館【千葉県木更津市】／2005年6月
常設展示室第6室をリニューアル。展示ケースや展示台などを改修するとともに、千葉県指定伝統工芸師の作品や関連する道具などの展示を追加。展示テーマである「くらしのなかの技術」のより効果的な展示を目指して、千葉県の伝統工芸に焦点を当てた展示を展開
TEPCO地球館【千葉県千葉市】／2006年3月
3階の展示物を一新し、「学びの広場」としてリニューアル。新たに「地球・人・エネルギー」をテーマに据え、最新の映像システムや参加体験型の展示装置、対話形式の展示プログラムを採用。「アース・ウォーク」「エナジー・ナビ」「エナジー・クエスト」「アース・ステップ」「CO2ダイエットクラブ」の5つのコーナーで構成され、環境学習やエネルギー問題などに対応した展示を展開。人と地球の関わりや世界の生活文化など、グローバルな視点から身近な地域の様子まで、幅広く学べるゾーンとして整備。学校利用を念頭に、子どもたちが興味を示しやすい展示を計画
板橋区立教育科学館【東京都板橋区】／2005年5月
科学展示室に、新たな展示として「デジタル通信とアナログ通信」や「デジタルキーボード」を設置
国立科学博物館【東京都台東区】／2006年3月
新館（現在の地球館）2階展示フロア「科学と技術の歩み」に展示する「万年時計（万年自鳴鐘）」が、2006年度に新指定重要文化財になるのを機に、同コーナーを一新。万年時計の機構がわかるスケルトン模型を動いている状態で展示。万年時計の精巧な部分がよく見えるように照明を工夫するとともに、万年時計に施されている美術工芸技術に着目した展示を展開。セキュリティ設備も十分に配慮
世田谷文学館【東京都世田谷区】／2005年11月
開館10周年を記念して、常設展示室を全面的にリニューアル。「文学に描かれた世田谷100年の物語」と題して、世田谷に縁のある作家を取り上げていた展示を、世田谷を描写した文学作品を取り上げる展示に変更。各作品に登場する場面を現在の写真と対比させながら紹介。定期的に展示替えを行いながら、合計100作品を紹介

東京電力エネルギー館（電力館）【東京都渋谷区】／2006年2月 3階と5階の全面改装を実施。3階「Your Stage」のフロアは、オール電化住宅のモデル展示や、話題のゲルマニウム炭酸温浴などを体験することができる「Quick Spa」、α波と床暖房を使った空間「α-Wave Library」、IH Herb Cafeなどを備えた「キレイと癒しのリラクゼーション空間」にリニューアル。5階「Magical Square」のフロアは、子どもたちが電気と科学・エネルギーの基礎知識について学びながら「電気がはひく未来」へ夢を抱くことができるように、様々な展示やゲームを備えた「未来を探るサイエンスゾーン」にリニューアル。3階は女性をターゲットに、5階は子どもたちの利用や学校教育との連関を意識した整備を実施 東京都恩賜上野動物園【東京都台東区】／2005年4月・2005年8月 2005年4月、ともだち牧場に「ふれあいコーナー」を開設。牧場の中側に観覧場所を設け、観覧者が柵越しに動物たちに触れることができるように整備。15年目を迎えた新生子ども動物園の象徴としてオープン。2005年8月には、非公開だったミナミコアリキのオスを、野外放飼場完成に伴って新たに公開 東京都多摩動物公園【東京都日野市】／2005年4月・2005年9月 2005年4月、旧展示施設の老朽化に伴い、オランウータン展示施設をリニューアル。周囲の自然を活かしながらオランウータンの住環境に配慮した施設とし、その生活する高さや動きを来園者に見せることで、熱帯雨林やその保護を連想させることを目的としている。放飼場と寝部屋を配置した「動物舎ゾーン」、自然に近い姿を観察することができる雄木林の「飛地ゾーン」、そして改修の目玉である前述した2ゾーンを9基のタワーとワイヤーロープで結ぶ「タワーゾーン」（通称：スカイウォーク）の、3つのゾーンで構成。スカイウォークは、オランウータンの空中通路としては世界最大級の規模を誇る。この展示によって、樹上性のオランウータン本来の身軽で軽快な枝渡りを見ることができる。2005年9月には、ウォッチングセンター内のトイレにオストメイト対応機を設置 東京農工大学工学部附属繊維博物館【東京都小金井市】／2005年12月 3階にある展示室を改修して、化学繊維情報展示室をオープン。最新の化学繊維情報を紹介する同展示室は、映像コーナーや国内の繊維関連企業から提供された最新の素材や製品の展示コーナーなどで構成 中野区平和資料展示室【東京都中野区】／2005年7月 戦後60年を記念して、展示内容の充実を図り、新装オープン。区広報紙を通じて戦争にまつわる品々を募集したところ、多くの申し出が寄せられたため、区民などが大切に保管してきたそれらの資料を新たに展示に加えた 2002FIFAワールドカップ記念日本サッカーミュージアム（11+）【東京都文京区】／2005年5月 地下1階に「日本サッカー殿堂」を新設。日本サッカーに対する功労者の功績を称える目的で設置。第1回の対象者として「日本サッカーの父」と呼ばれる元日本代表コーチのデットマール・クラマー氏、メキシコ五輪主将の八重樫茂生氏、同五輪得点王の釜本邦茂氏など、20人を選出。現在に語り継がれる先駆者たちの軌跡を見ることができ 日本科学未来館【東京都江東区】／2005年7月・2005年12月・2006年3月 2005年7月、5階VRシアターを大幅に改修し、高品質の立体映像を映し出すための新しい分光立体視システムを導入。また、同月には、常設展示エリア「生命の科学と人間」と「技術革新と未来」に新たに5つの展示物を追加（展示場を一部改修）。2005年12月、世界最多500万個の恒星を映し出すプラネタリウム「MEGASTAR-II cosmos」に新しく開発したオリジナルの上映プログラム「暗やみの色」を導入。2006年3月には、常設展示エリア「地球環境とフロンティア」に新たに「深海掘削からわかる地球のしくみ」と「加速器で探る素粒子と宇宙」の2つの展示を追加（ミニシアターは撤去） 平和祈念展示資料館【東京都新宿区】／2005年7月 戦後60年と開館5周年を契機に、展示資料や展示方法の充実を図る。定期的に資料を入れ替えることができる「特設展示コーナー」や、来館者が個別に視聴することができ「ビデオブース」、資料のレプリカに触れることができる「体験コーナー」を新設。事前に来館者などを対象に行ったアンケート調査の結果を反映。館内の明るさやキャプションの改善などにも来館者の意見を反映 本所町民防災教育センター（本所防災館）【東京都墨田区】／2006年3月 地震体験コーナーをリニューアル。地震波形のデータに基づいて再現された、北海道南西沖地震（1993年：マグニチュード7.8）や新潟県中越地震（2004年：マグニチュード6.8）の揺れを新たに体験することができるように整備 武蔵村山市立歴史民俗資料館【東京都武蔵村山市】／2005年4月 常設展示をリニューアル。「丘陵（ヤマ）と台地（ハラ）が育む生命のあゆみ～人と自然との共生～」をテーマに据え、「丘陵と台地に生きた人々」「丘陵と台地が育む武蔵村山市の歴史と伝統文化」「里山」と人々のくらし」の3つのエリアで構成。開館以降の様々な研究活動や市史編纂事業の成果などを活かしながら、同市にある施設としての独自性を意識した整備を実施。また、同市指定文化財や神社・仏閣などを収録したDVDを新たに取りそろえ、公開 早稲田大学倉津ハニー記念博物館【東京都新宿区】／2005年4月 企画展示室を改装。また、入口に自動ドアやインターフォンを整備するとともに、エレベーターを館内に新たに設置 日本大学生物資源科学部博物館【神奈川県藤沢市】／2006年3月 3階部分を改修。我が国の米作を中心とした植物及び農機具コーナー、蝶を中心とした昆虫コーナー、森林・木材コーナー、漁具コーナーを設置するとともに、来館者自らが「観て、触れて、やってみる」体験コーナーを整備 三菱みなとみらい技術館【神奈川県横浜市】／2005年9月・2006年2月 2005年9月、「海洋ゾーン」をリニューアル。地球深部探査船「ちきゅう」と深海巡航探査船「うらしま」のコーナーを新設。有人潜水調査船「しんかい6500」のコーナーなど、従来の展示コーナーについても、大型スクリーンや映像装置を新たに配するなど、参加体験型の展示空間としての充実を図る。併せて、「3Dシアター」を新たにオープン。2006年2月には、「建設ゾーン」を全面的にリニューアルして、「交通・建設ゾーン」としてオープン。それまでの「橋とトンネル」の展示に代えて、身近な車や電車、船舶、航空機などの多様な交通・輸送システムを紹介。実物大の超低床路面電車「jTRAM」のシミュレーターや大型都市模型「トランスポート・シティパノラマ」などの新しい展示を設置 横浜市立金沢動物園【神奈川県横浜市】／2005年4月・2005年7月 2005年4月、「オオソノヒツジ観覧デッキ」を開設。2005年7月には、来園者に生き物を身近に感じてもらうスポットとして「いきもの発見広場」を設置 水原ふるさと農業歴史資料館【新潟県阿賀野市】／2005年8月 弥生時代の資料を展示する「弥生の里展示コーナー」をオープン。阿賀野市猫山遺跡の発掘資料を中心に、土器や石器、装飾品など約160点を展示。同遺跡の「再葬墓」の復元ジオラマも設置	湯沢町歴史民俗資料館「雪国館」【新潟県湯沢町】／2005年6月 1階展示スペース「小説『雪国』の世界」を中心に改装。現代の日本画を代表する13人の画家が、同町を舞台にした川端康成の小説『雪国』に登場する場面をモチーフに描いた作品を新たに展示。川端文学と美術作品を同時に味わうことができる展示を展開。川端康成が生前に愛用した遺品7点などを新たに展示に加えた。また、2階、3階の民俗資料展示スペースでは、収蔵品をテーマ別に再構成するなど、見やすい展示を工夫 射水市小杉展示館【富山県射水市】／2005年5月 国登録有形文化財の建物を見学に来た観光客などからの要望により、常時開館を開始。常時開館を始めるにあたり、小杉焼や地元出身の日本画家・郷倉千穂の作品などを常設展示できるように整備を図る 富山市ファミリーパーク【富山県富山市】／2006年3月 「ヤマネコ舎」を移転し、アムールヤマネコの野生に近い生態を見ることができる「行動展示」の場として新たに整備。アムールヤマネコの生息環境を再現し、特殊な行動（水中を泳ぐ）を多面的に展示。タイマー付きの自動給餌機も設置 太鼓の里資料館【石川県白山市】／2006年3月 展示室の改装とともに展示内容を一新。展示室入口には雅楽で使用する大きな太鼓を設置。アフリカ、アジア、中東、アメリカ、ガムラン（インドネシア）、日本、雅楽の7つのエリアに分けて約100点の太鼓を展示。併せて、和太鼓コンサートの様子を鑑賞することができる映像ルームを2倍の広さに拡張。太鼓に関する資料や書物を集めた閲覧コーナーも設置 のとじま臨海公園水族館【石川県七尾市】／2005年7月・2006年3月 2005年7月、既存の水槽に円柱型水槽を接続した「ドルフィン万華鏡」をオープン。スナメリやイロワケイルカを立体的に観察することを可能にした。また、水槽の底部から4色の光線やエアーを発することで、様々な変化が楽しめるように仕掛けを施している。生息域が異なるスナメリとイロワケイルカの混泳という国内初の試みでもある。2006年3月には、熱帯地方の河口域などを再現した「マングロープの水辺」コーナーを新設。マングロープの水上から水中までを再現した4つの水槽で構成。階段状に並ぶ水槽の特性を生かして、水上から水中へ移動するように見せている 越前松島水族館【福井県坂井市】／2006年3月 国内最大級の屋内型ウミガメ専用施設として、円形ドーム型の「うみがめ館」をオープン。ドーナツ型の水槽を採用し、中央に観覧スペースを設置。2種6頭の水ミガメたちと、16種類の熱帯魚約170匹が泳ぐ姿を上、横から観察することができる。ウミガメが産卵するための人工砂浜も整備。車椅子利用者のためにリフトを設置 国営アルプスあづみの公園 テーマ展示館【長野県安曇野市】／2005年4月 「常念岳石室」（常念岳避難小屋をイメージして作られた屋内展示室）をリニューアル。それまでは昔の登山用具が展示されていただけだったが、今回のリニューアルにより展示内容の充実を図る。常念岳に石室を建設するために奔走した、大正期の堀金小学校長・佐藤嘉一の紹介パネルをはじめ、常念岳周辺の山小生の歴史や、日本アルプスを世界に広めた英国人・ウォルター・ウェストンに関する展示などを設置 郡上八幡城【岐阜県郡上市】／2006年1月 1988年の大規模改修以来、18年ぶりに天守閣の展示をリニューアル。同市重要文化財「城主青山氏甲冑」をはじめ、代々の城主の家紋や旗印、宝暦騒動の訴状、映画「郡上一揆」のスチール写真、郡上と縁が深いとされる戦国武将山内一豊の妻千代の肖像画（複製）などを新たに展示 池田20世紀美術館【静岡県伊東市】／2005年4月 地下1階にあった常設展示室を1階に、1Fにあった企画展示室を地下1Fに移動。併せて、展示室の壁面や照明、空調機器をリニューアル。開館30周年記念事業の一環として実施 下田海中水族館【静岡県下田市】／2005年7月 海の生物館「シーバレス」を新装オープン。1978年に建設された「シーバレス」を「海中体感」のコンセプトに基づいて改装。アクアボール（円柱水槽）を新設するなど、イメージを一新した館内には、伊豆の海に生息する生物250種類、1,500点を展示。タカアシガニの水槽は旧水槽の1.4倍に拡大 東海道広重美術館【静岡県由比町】／2005年4月 展示内容を一新。郷土関係の展示を取りやめ、浮世絵に特化した展示を展開することによって、「浮世絵専門館」としての性格を明確にした。それまで「由比の自然と歴史」「東海道の宿場町・絵村」「広重の浮世絵の世界」の3つのスペースで構成されていた展示は、「美術館ガイダンス」「浮世絵の基礎知識」の2つのスペースによる構成に改装 浜松科学館【静岡県浜松市】／2006年3月 開館20周年を記念して、宇宙コーナーの展示を充実（3月10日）。火星探査を疑似体験する「プラネットナビゲーター」などの新たな展示装置を導入。「プラネットナビゲーター」は、日本で初めて、金星、火星、地球の画像を球面スクリーンに立体データで表示することができ機能を備える。また、アルゼンチンで発見された隕石など、展示資料を一部更新。3月24日には、星空をリアルに再現する「恒星投影機」とドーム曲面全体にフルカラー動画映像を映し出す「デジタル映像システム」を備えた最新鋭プラネタリウム「ときめきはまつまやまらいか偵」によって調達 浜松市フラワーパーク【静岡県浜松市】／2005年5月 開園当初から、全体的なデザインはほとんど変更しなかったバラ園を改修し、新たに「ローズガーデン」としてオープン。「青いバラの小径」や「インブルー・ローズコーナー」を新たに配置。また、従来の品種展示をメインにした構成を見直し、整形式花壇と自然風花壇を調和させることで、英国調の優雅なバラの世界を演出 一宮市木曽川資料館【愛知県一宮市】／2006年1月 旧木曽川町の郷土資料館をリニューアル。一宮市・尾西市・木曽川町の合併に伴い、施設の名称を改めるとともに、展示室の全面改装を実施。新たな展示は、山内一豊を中心とした新一宮市域における戦国武将の群像を主に、「山内一豊の生涯」「戦国武将の群像」「史跡を訪ねて」の3つのコーナーで構成。同館に隣接する土蔵造りの蔵は収蔵室として活用 知多電力館【愛知県知多市】／2006年3月 展示物をリニューアル。参加型体感シアター「ディスクバリー号」や「知多空撮マップ」を新たに設けるなど、電気について楽しく学ぶことができる展示内容に整備。「見て、ふれて、楽しく学ぶ電気の世界」をコンセプトに据え、映像や模型、クイズを用いた展示をはじめ、絵解きグラフィックやのぞき仕掛けグラフィックなどの新たなグラフィック展示も展開 東邦ガス ガスエネルギー館【愛知県東海市】／2006年3月 館全体のテーマを「地球温暖化とエネルギー」に改め、全面的なリニューアルを実施。見て学ぶ展示から、子どもたちが主体的に考え、楽しく学ぶことのできる参加体験型展示へと転換。アテンダントのアテンド方式をインタープリター型（来館者とのやり取りを通して理解を深めていく、双方向コミュニケーションを重視した解説手法）に変更。展示を理解する手助けとなる、テーマカード（校外学習用／一般見学者用）を学習の興味・関心に合わせて作成。それまで日曜日は休館していたが、個人や家族連れの来館者が利用できるように日曜日も開館する運営に変更
---	---

名古屋科学館【愛知県名古屋市】／2006年2月
生命館6階に新たな展示「ゲノムの迷路」を設置。観覧者が迷路状の構造物を歩きながら「ゲノムとは何か」について知ることができる、ゲーム性のある展示を採用。性別や血液型をはじめ、アルコールの分解に関する体質、太りやすい体質の遺伝子などを取り上げ、わかりやすく説明
名古屋市政資料館【愛知県名古屋市】／2006年3月
展示内容を更新。2階「旧検事調所室」では、愛・地球博 名古屋バビリオン「大地の塔」に関する常設展示を開始。万華鏡の模様映像や総合プロデューサーを務めた藤井フミヤ氏が大地の塔の展示内容を説明する映像、大地の塔全体の外観模型や万華鏡の模様を創り出していた装置模型などを配置。また、3階「第10常設展示室」には、2009年5月までに開始される「裁判員制度」に関する展示を追加
名古屋博物館【愛知県名古屋市】／2005年4月
地下1階に設けられていた「触れてみる学習室」を、2階常設展エントランスに移設。「ふれてみるコーナー」に改称して再オープン。「縄文土器」「大人形」「和本」「仏像」など、6種類の展示でスタート
三河武士のやかた家康館【愛知県岡崎市】／2006年3月
耐震補強と展示改装を実施。新たなグラフィックやCG映像、可動式ジオラマを整備するなど、幅広い年齢層の来館者が楽しむことができるように展示方法を工夫。「決戦関ヶ原」では、直径7mの可動式ジオラマに武将フィギュアを配置し、屏風ビジョンと大型スクリーンを併設することで、東軍・西軍の戦いの模様をダイナミックに再現。また、戦国時代の武器の重さや長さ、高さなどを体験することができ「戦国武士の体験コーナー」を新たに設置。1階ビデオルームの改装や案内・誘導サインの充実なども併せて実施
水のめぐみ館 アクア琵琶【滋賀県大津市】／2005年4月
瀬田川洗堰完成100周年を記念して、新たな展示を整備。1階エントランスホールに水槽を設置し、琵琶湖に生息するモロコなどの固有種をはじめ、同館のシンボルキャラクターになっているピッコオナマス、ブラックバスなどの外来種を展示。2階には洗堰の実物大断面模型を設置。また、2階「治水の歴史」「水利利用の歴史」「琵琶湖総合開発」コーナーの展示の一部改装して、環境への取り組みを初めとした琵琶湖における新しい出来事などを随時紹介。洗堰が見える川沿いの空間にテーブルを設置し、休憩スペースの充実を図る
垣将集館【京都府福知山市】／2005年6月
陸上自衛隊福知山駐屯地史料館を「垣将集館」と改名。外壁の改修と展示室の改装を実施。展示室には2つのコーナーを新設。「国際貢献コーナー」ではカンボジアや東ティモール、イラクにおける自衛隊の活動を紹介。また、「災害派遣コーナー」では鳥インフルエンザの防疫業務で着用した白い防護服などを展示。展示室内には、イラク派遣隊員が着ていた防暑服などを揃えた「試着記念写真コーナー」も設置
京都市青少年科学センター【京都府京都市】／2005年7月
新しい常設展示「チョウのふしぎ」を設置。動物行動学者で、「チョウはなぜ飛ぶか」の著者である日高敏隆所長のアイデアをもとに、チョウの生態（からだのつくりや餌の探し方、身の守り方、仲間の見つけ方など）について、パネルや映像、模型、ジオラマなどを用いた参加体験型の展示を整備
夜久野町化石・郷土資料館【京都府福知山市】／2005年4月
夜久野町郷土資料館が「夜久野町化石・郷土資料館」としてリニューアル。同町在住の益富地学会会員・吉井昌平氏から約700点に及ぶ化石の寄贈を受け、化石関係の展示を増設
大阪科学技術館（てくてくノ館）【大阪府大阪市】／2005年7月・2006年3月
2005年7月、展示の約3分の2を更新。小・中学校に導入されている「総合的な学習の時間」を意識した展示から、科学への興味を誘う展示内容へと改装。全面改装5ブース、部分改装14ブースの計19ブースで改装を実施。また、映像や音響などを用いて製鉄の工程を紹介する住友金属工業（株）などの2ブースを新設。対話形式や実験中心の展示を採用し、小学校高学年の児童が理解することができる展示内容を整備。2006年3月には、（独）日本原子力研究開発機構の展示をリニューアル。解説パネルの更新を図るとともに、「イライラ棒ゲーム」など、楽しく体験しながら学ぶことができる展示を整備
大阪人権博物館（リパティおおさか）【大阪府大阪市】／2005年12月
開館20周年を機に、国際化による多文化共生など、多様化する新たな課題に対応するため、常設展示室の大幅なリニューアルを実施。総合展示は、「私が向き合う日本社会の差別と人権」を統一テーマとし、「人権の現在」「私の価値観と差別」「差別を受けている人の主張と活動」「私にとっての差別と人権」の4つのコーナーで構成。在日コリアンやアイヌ民族、障害者などの問題に加え、性的少数者、HIV感染者・エイズ患者、ハンセン病回復者、ホームレスの問題も新たに取り上げた。最新の課題やニーズに対応することができるように、可変型の展示手法を採用するとともに、差別を受け、運動に取り組む当事者による生の言葉で解説を記すと、随所に新たな試みを実施
大阪府立大型児童館ビッグバン【大阪府堺市】／2006年3月
4階エレベーター前に新体験遊具「ほしのみち（スペース・ロード）」を設置。松本零士館長の監修による3D立体映像の世界で、宇宙空間を歩いているような体験ができる
水道記念館【大阪府大阪市】／2006年1月
開館10周年を記念して、「水道の歴史とくらしのコーナー」をリニューアル。高度浄水処理の仕組みを知ることができ「浄水場バーチャルツアー」、粒状活性炭の形状や性質とその働きについてゲーム感覚で学ぶ「活性炭惑星たんけん」、子どもたちがオゾンになってオゾンの働きを学ぶバーチャルゲームタイプの展示「オゾンレンジャー」など、参加体験型の展示を新たに整備
松下電器歴史館・松下幸之助メモリアルホール【大阪府門真市】／2006年3月
テーマ展示ゾーンを改装。「限りなく優良品を世の中に」のコーナーを「テレビの歴史と変遷」に関する展示に変え、同社の代表的商品であるテレビに焦点を当てた展示を展開。白黒テレビから薄型テレビまでの変遷が一目でわかるように資料を配置。東京オリンピックやアポロ月面着陸、大阪万国博覧会など、テレビが映し出してきた出来事とともにテレビの歴史を紹介
山名氏史料館【山名蔵】【兵庫県香美町】／2005年6月
2階展示室に、地元出身の美術蒐集家・濱田義明氏が寄贈した、山名家所縁の史料や中国陶器を中心とした美術品を全て展示。「濱田記念室」として整備
和歌山県立自然博物館【和歌山県海南市】／2006年3月
第1展示室の「滝水槽」を撤去し、新たに「和歌山県海」水槽を設置。上部にハロゲンランプ6灯を設置し、明るい水槽にするとともに、小さな子どもでも容易に展示生物を観察することができるように、低い位置からアクリルガラス面を立ち上げた。また、第2展示室には、蛍光鉱物が紫外線で光る様子や鉱石の重さ、アンモナイト化石の触感などを体感する「石にふれあうコーナー」を新たに設置
鳥取県立鳥取二十世紀梨記念館【鳥取県倉吉市】／2005年4月・2006年1月
2005年4月、1階常設展示ゾーン「梨を育てる」に袋かけ体験コーナーをオープン。ナシの袋かけの模様鑑賞をすることができる作業体験館を新たに整備。2006年1月には、シアターコーナーに鳥取県の梨産地を紹介する新たな映像ソフトを追加

鳥取県立博物館【鳥取県鳥取市】／2006年3月
1階「地学・生物展示室」をリニューアル。2004年度から2年かけてリニューアルを実施（2005年3月、展示室の約半分を先行オープン）。地学・植物・動物の各分野で、それぞれのイメージカラーを基調としたパネルをつくり、展示室の雰囲気を一新。新しい学説を盛り込んだ解説とともに、美しい写真や図表を豊富にパネルに取り入れた展示を展開。砂丘地に生息するイソコリグモの拡大模型など、新たな展示資料も追加
島根原子力館【島根県松江市】／2006年3月
1階「原子力発電コーナー」と展示コーナーの入口通路をリニューアル。原子力発電コーナーには、原子力発電や核分裂の仕組みをわかりやすく紹介する展示を設置。入口通路は「リッキーの森」として、天井や壁面レリフで青空と島根の自然を表現
倉敷市立自然博物館【岡山県倉敷市】／2006年3月
第1展示室「岡山県のなりたち」を新装オープン。化石や岩石、鉱物の標本などの展示を通じて、岡山県の成り立ちを紹介。自然に関する学説の変化、展示装置の老朽化などを理由にリニューアルを実施。来館者が標本に触ったり、ルーベなどの器具を使って観察することができる参加体験型の展示を多く採用。2002年度から毎年1室ずつ行われた、館内の展示室全4室（第1展示室～第4展示室）の改装作業が完了し、展示点数は以前の約2倍に増加。館内のサインも全面的に更新
なかつ美術館【広島県尾道市】／2005年10月
2階第4展示室を改装して「小林和作記念室」を新設。尾道で暮らした洋画家の作品16点を展示。併せて、2階第2展示室を現代フランスの画家「ポール・アイズビリ」の展示室、2階第3展示室を中川一政など「尾道を描いた作家たち」の作品の展示室に改装
山口県立山口博物館【山口県山口市】／2005年4月
2階常設展示室に考古展示コーナーを新設。山口県内で出土した土器、鉄器、青銅器などの考古遺物を展示。1987年以来、不在だった考古学の専任学芸員が2004年秋に着任したことに伴い、18年ぶりに考古展示コーナーを開設
愛媛県総合科学博物館【愛媛県新居浜市】／2005年12月
夏の特別展「さわって!あそんで!おもしろ科学ワールド」（2005年7～9月開催）で展示した科学体験装置12点を、特別展終了後に常設展示室（3階科学技術館）へ移設。「素のゾーン」に6点、「生のゾーン」に2点、「伝のゾーン」に1点、「動のゾーン」の幼児コーナーに3点を設置
愛媛県歴史文化博物館【愛媛県西予市】／2005年11月
歴史展示室4「愛媛県の誕生と歩み」の一部を改修して、昭和30～40年代の生活空間を再現した新たな常設展示「昭和の街かど」をオープン。当時の洋品店、本屋・文具屋、駄菓子屋、一般住宅の応接間・ダイニングキッチンを再現し、戦後日本の暮らしが一目でわかる展示を整備。当時の看板や車（スバル360、シルバービジョン）などを配して、昭和の街角を体感することができる空間を演出。戦争末期に灯火管制された住宅も一部再現
面河山岳博物館【愛媛県久万高原町】／2005年4月
3階常設展示の「面河の産業・観光コーナー」を廃止し、「企画展示ブース」にリニューアル。市町村合併によって「面河村」の表記が適切でなくなったことや、展示内容が10年以上前のものであること、企画展示を行うスペースが無かったことなどを理由にリニューアルを実施
香美市立やなせたかし記念館 アンパンマンミュージアム【高知県香美市】／2006年3月
開館10周年を前に、地下展示室「アンパンマンワールド」を改装。やなせたかし氏の「絵本の世界」を再現していた展示室に、「テレビアニメの世界」を加え、展示の充実を図る。ジャムおじさんのパン工場、アンパンマンたちが住む町並みを再現したジオラマ「みんなのまち」、バイキン城の3つの場面で構成。展示物の床からの高さを低く設定し、園児たちにも見やすく改良。また、1階エントランスホールには、大きなからくり時計「かくれんぼの木」を設置するとともに、情報端末「アンパンマンミュージアム大百科」を新たに整備
出光美術館（門司）【福岡県北九州市】／2005年9月
開館5周年を記念して、展示ケースの増設、ロビー空間の充実など、館内の改装・改築を実施。展示ケースを増設したことにより、企画展の積極的な展開を図る
鞍手町歴史民俗資料館【福岡県鞍手町】／2006年1月
開館20周年を記念して、展示スペースを改装。「本物に触れ、体験し、歴史を体感する」をテーマに、約1,000点に及ぶ資料の展示見直しを実施。縄文時代の新延貝塚から出土した土器などを展示する「歴史」、江戸時代の国学者を紹介する「伊藤常足」、明治・大正・昭和時代の人々の暮らしをテーマにした「民俗」の3つのゾーンで構成。資料を年代順や季節ごとに並び換えるなど、入館者にとってわかりやすい展示に努めた。土器や昔の教科書を手に取ることでできるコーナーやお手玉やおはじきで遊ぶことのできる「むかしのおもちゃ」のコーナーも設置
佐賀県立21世紀県民の森 森林学習展示館【佐賀県佐賀市】／2006年3月
展示装置の老朽化や展示内容が時代と合わないことなどを理由に、展示改装を実施。「県民の森をもっと知ってもらおう」や「木の性質、森林の多面的機能を知ってもらおう」をコンセプトに展示を展開。体験型の展示を多く採用したり、環境学習スペースを設けるなど、森林環境教育の場として必要となる整備を実施。県民の森で見ることのできる花、野鳥、昆虫などを示したパネルや森林の働きが一目でわかるジオラマを設置。県民の森にある木の葉からその樹木の種類や特徴を検索することができるパソコン検索樹木図鑑や、木材の優れた性質や他の建築資材と比較することができるコーナーなども設置。映像設備の充実を図り、映像を使った環境学習にも対応
宇佐神宮 宝物館・絵画館【大分県宇佐市】／2005年10月
本殿などがある上宮の地下にあった絵画館を改修。祭神・八幡神の出現から江戸時代までの神宮の歴史が描かれた31点の絵画作品を新たに展示。10年に1度、天皇陛下の使いを招く勅祭を前に行われる、本殿改修工事などの記念事業の一環として絵画館を改修
鹿児島市維新ふるさと館【鹿児島県鹿児島市】／2006年3月
大規模な展示改装を実施。1階中央に新たに配した「幕末探訪・郷中教育」コーナーでは、西郷隆盛や大久保利通が育った下加治屋町の一面を再現。パソコンや大型画面で彼ら下級武士の日常生活を疑似体験し、薩摩藩独自の「郷中教育」を学ぶことができる。また、入口に設置した「ふるさとゲート」では、螺旋状に並ぶ6台のモニターが鹿児島市の街並みや乗り物の移り変わりを紹介し、現代からタイムスリップする感覚を演出。ほかにも、「世界を見ていた薩摩」コーナーなど、1階は6つのゾーンで構成。地下1階の「維新体感ホール」に英・中・韓3カ国語による音声システムを導入したり、車椅子利用者や子どもの目線の高さに配慮して、展示台の高さを低くするなど、国際化やバリアフリー化にも対応
尚古集成館【鹿児島県鹿児島市】／2005年10月
「薩摩ルネッサンスプロジェクト」の一環として、1971年以来となる大規模な展示改装を実施。新しい展示は「海洋国家薩摩」「薩摩の精神文化」「集成館事業」をテーマにした3つのコーナーで構成。以前は島津家全般的の歴史を紹介していたが、西郷隆盛や大久保利通たちを育んだ歴史や文化（近代化の背景）を顕彰することに重点を置いた。集成館事業を象徴する反射炉の模型などを新たに展示するとともに、機械工場操業時の雰囲気を再現した展示コーナーを設置。また、大型スクリーンを備えたシアター兼講座室（50席）を新たに設けると、視覚に訴えるわかりやすい展示を整備。館内は深い茶色に統一し、床を新たな素材で張り替えるなど、全体のイメージを一新

●一部改装（展示室以外）

佐藤養助漆蔵資料館【秋田県横手市】／2005年4月
外部団体用の展示コーナーを設置。自社の紹介だけでなく、外部団体が文化情報を発信できるコーナーを整備。食事処「養心庵」や喫茶「蔵」、お土産処「くら蔵」も同時オープン。「食べる」「見る」「くつろぐ」「買う」ことのできる多彩なスペースとしてリニューアル
鶴岡市立加茂水族館【山形県鶴岡市】／2006年3月
館内にあったレストランが「クラゲレストラン」として新たにオープン。展望を良くするとともに、全面改修したことによってレストランの面積は約2倍になり、座席数は倍増。主に館職員が考案した多彩なクラゲ料理を提供
TEPCOエネルギー館【福島県富岡町】／2005年7月
入口付近にショップコーナーを新設。同館関連グッズや地元商工会との連携による商品を販売。スタジオジブリ作品のキャラクターグッズを買うことができる「どんぐり共和国」もオープン。また、中世ヨーロッパのペーカリーをイメージした店内で、飲み物やオリジナルのパンを楽しむことができるカフェコーナーを新設。スクールルームを設けて、少人数の料理教室やハーブ教室などを開くことができるようにするなど、地域の人々の交流の場としての機能を充実
大平町歴史民俗資料館・郷土資料館【白石家戸長屋敷】【栃木県大平町】／2005年6月
敷地内の土蔵を、鑑賞施設兼休憩所のきょうらい「蔵」として開設。民芸調の家具で統一された蔵内では、アマチュアカメラマンの作品や絵画などの展示や、同館所蔵の蓄音機による音楽鑑賞をすることができる
原爆の図丸木美術館【埼玉県東松山市】／2005年4月
絵本原画展示室として利用していたスペース(2階)を貸スペース「丸木美術館アートスペース」に用途変更。展示室と休憩室で構成。休憩室からは都幾川を見渡すことができる
千葉県立現代産業科学館【千葉県市川市】／2005年4月
入館料の有料化に伴い、それまで有料スペース内にあったミュージアムショップを無料スペースに移設。以前はレストランであったスペースをショップと休憩ゾーンに改装
成田観光館【千葉県成田市】／2006年3月
老朽化が進んだ施設の改修に加えて、古くなった展示物を一新するなど、開館以来初の改装を実施。1階の観光情報コーナーにおける関連機器の更新とともに、3階の企画展示室を多目的展示室に改め、市民ギャラリー的な利用が可能となるように整備
船橋市アンデルセン公園 子ども美術館【千葉県船橋市】／2005年4月
地下に童話体験施設「アンデルセンスタジオ」を新設。アンデルセン童話「おやゆび姫」の登場人物や動物に扮した子どもたちがスタッフの指導で熟演し、童話の世界を体験。アンデルセンの故郷、デンマーク・オーデンセ市の子ども文化センター（ティンダーボックス）にある同スタジオが、国外に設置されるのは初の試み。童話の読み聞かせや着替えなどをする部屋、「おやゆび姫」に関する様々なセットなどを整備
国立西洋美術館【東京都台東区】／2005年11月・2006年1月
2005年11月、版画素描収蔵庫に新たに版画素描閲覧室を併設。学術研究のために、同館の版画・素描作品（常時展示をしていない作品に限る）の閲覧を必要とする外部の研究者や専門家が利用可能（予約制）。2006年1月には、常設展の展示スペースや展示作品を増やすために、展示場内に新たに壁面を設置するなど、一部改修工事を実施
しながわ水族館【東京都品川区】／2006年3月
水上レストラン「ドルフィン」を全面改修。席数の増加とともにメニューの見直しも実施。江戸時代に品川沖で取れたノリやアナゴ、シャコ、アサリなどの魚介類を豊富に使った新メニューの提供や、明治初期に同区内で製造されていたビールを、地元有志が再現した「品川縣ビール」の販売を始めるなど、「地元産」を前面に押し出した運営をアピール
東京都庭園美術館【東京都港区】／2006年3月
正門脇にミュージアムショップ「Portier（ポルティエ）」を新設。同館が旧朝香宮家の邸宅であった当時、宮邸の門衛所であった建物を活用し、従来より品揃えを大幅に充実させてオープン。また、同時に、カフェレストラン「cafe 茶酒 kanetanaka」もオープン。老舗料亭「金田中」が新しいスタイルの和風カフェレストランを展開
東京富士美術館【東京都八王子市】／2005年8月
ミュージアムショップを移設し、拡張オープン。自然素材をふんだんに使った、優しい雰囲気的空間にするなど、全面改装を実施。併せて、トイレのリニューアルも実施。個室数の増加を図るとともに、お子様用シートの設置、多目的トイレへのオストメイト対応機の設置などを実施
彫刻の森美術館【神奈川県箱根町】／2005年4月
オープン・キッチン・スタイルの飲茶レストラン「箱根飲茶楼」をオープン。プリンスホテルの中華総料理長である潘繼祖氏のプロデュースで、香港から招聘した料理人がつくる本格点心メニューやデザートを楽しむことができる
電気の史料館【神奈川県横浜市】／2005年7月
1階奥にあるミュージアムカフェをリニューアル。店内にエジソンが発明した蓄音機や円筒形レコードなど、貴重なオーディオ機器のコレクションを展示することで「ミュージアムなカフェ」を演出
横浜美術館【神奈川県横浜市】／2005年4月・2005年10月
2005年4月、美術情報ギャラリーにあった設備を美術図書室に移設し、「美術情報センター」として新たにオープン。美術図書、映像番組、全国的美術館広報物など、館内に分散していた美術情報ツールを集約。展示室と同センターを結ぶポイントに自動ドアを設置するなど、利用しやすい環境を整備。2005年10月には、ミュージアムショップを旧美術情報ギャラリーの場所に移転するとともに、カフェ「小倉山」を新設
軽井沢絵本の森美術館【長野県軽井沢町】／2005年4月
絵本関連グッズを販売していた第二ミュージアムショップを「英国ナショナルトラスト」（イギリスの環境保護団体）の専門店にリニューアル。ナショナルトラスト関連グッズを中心に、湖水地方に縁のあるピーターラビットの生みの親であるビアトリクス・ポターや英国に関するグッズなどを販売
京都府京都文化博物館【京都府京都市】／2005年5月
「京都文化博物館にぎわい創出事業」の一環として、国指定重要文化財の別館（旧日本銀行京都支店）をリニューアル。市民に開放されたイベント会場として新たにオープン。閉ざされていた三条通側の扉を開放し、スロープを備えた入口に改良。また、ウッドデッキやオープンカフェなどを新たに整備。館内には、京の名産品販売などのテナントが居したり、博物館や京の見所などを紹介する大型ディスプレイを設置するなど、イメージを一新
大阪市立自然史博物館【大阪府大阪市】／2006年3月
本館入口付近を入館者にとってより親しみやすい空間にするため、一部改修工事を実施。本館と「花と緑と自然の情報センター」の間のポーチ（天井部）に全長19mのナガスクジラの全身骨格を展示。また、本館入口のホールでは「大阪における人と自然のはじまり」「大阪における人の活動と自然」「地形図で見る大阪の変化」の3つのテーマ展示を展開。さらに、「普及センター」を「ミュージアムサービセンター」に改名し、市民の学習支援や学校教育のサポート拠点として新たにスタート

宝塚市立手塚治虫記念館【兵庫県宝塚市】／2006年3月
2階「ジャングル大帝休憩コーナー」を一部改修し、「ジャングルカフェ」をオープン。椅子、テーブルの移設やカウンターの設置、水回り工事などを実施。館内飲食禁止であったため、来館者から多く寄せられていた「飲食スペースが欲しい」という要望に応え、カフェスペースを整備
姫路市立美術館【兵庫県姫路市】／2005年5月・2005年7月
2005年5月、美術館ホールの喫茶コーナーを「Museum Cafe」としてリニューアル。それまでのベンチ式の椅子から、一人がけが可能なモダンな木製の椅子に更新。前庭を一望することができるカウンター席やソファ席を新たに設置。2005年7月には、前庭にオープンカフェを整備
松山市立子規記念博物館【愛媛県松山市】／2005年4月
1階のミュージアムショップを改修。間口を広げ、店内を明るく落ち着いた色調の空間に改装。入口上部の行灯型照明（ミュージアムショップの看板）をはじめ、「特別企画展図録・子規博日よりコーナー」や「(短冊や色紙などの)ディスプレイコーナー」などをリニューアル。開放的で、来館者が利用しやすいショップづくりを実践
館塚市歴史資料館【福岡県飯塚市】／2005年4月
館内の空きスペース（壁面）を活用した「市民ギャラリー」を開設。市民からの要望もあり、親しみやすい資料館づくりの一環として実施。1、2階をつなぐスロープの壁面と2階休憩ホールの壁面を利用して、市民に開放するギャラリーを整備。幅広く芸術文化に関する展示スペースを提供することで、歴史に興味のない人にも資料館を訪れてもらい、郷土の歴史を再認識してもらうことを目的に実施
福岡アジア美術館【福岡県福岡市】／2005年12月
7階の彫刻ラウンジにキッズコーナーを新設。ベトナム人美術作家のティファニー・チュン氏がプロデュース。空間デザインだけでなく、ソファやクッションをはじめ、棚、おもちゃ、ガラス面のシールから柱のオブジェに至るまで作家自身がデザインし、ベトナムとアメリカで制作。アジアの絵本250冊やブロック、簡単な塗り絵などを配置し、親子の利用を促す

●その他

入間市博物館（ALIT）【埼玉県入間市】／2006年3月
本館1階の回廊脇（旧ロッカー室）に、ベビーベッドやソファを備えたベビールームを設置
横浜市立野毛山動物園【神奈川県横浜市】／2005年4月
インドゾウの「はま子」が死んで空いたままになっていた飼育舎と運動場を、来園者の休憩広場「ひだまり広場」にリニューアル。飼育舎や水浴び用プールなどを取り壊し、外周を一回り大きくした広場には芝生を植え付け、風除けの壁には「はま子」の写真とプロフィールを焼き付けたプレートを設置。イベントを開催するなど、多目的スペースとして活用
糸魚川歴史民俗資料館（相馬御風記念館）【新潟県糸魚川市】／2006年2月
自動ドアの設置、トイレの増築、階段の手すり設置など、バリアフリー化を実施。また、市民から寄贈された東洋と五十嵐波明の江戸時代の屏風を今回のリニューアルを機に初めて展示するなど、展示内容を一部変更。地下収蔵庫の改装、収蔵庫用空調機の設置、事務室の改装も併せて実施
新潟市會津八一記念館【新潟県新潟市】／2005年4月
館内のバリアフリー化を図るための改修工事を実施。エレベーター、車椅子対応トイレ、ベビークチェア付きトイレは建物を増築して設置。エレベーター利用者の通路確保のため、2階吹き抜け部分の一部を床面に変更。出入口口にはスロープを設置し、暖房設備の増強も図る。車椅子利用者が基本的に全ての展示を見ることができるよう配慮。新潟市の主な公共文化施設7館のバリアフリー化が完了
新潟市美術館【新潟県新潟市】／2005年4月
開館20周年を機に、電気設備や空調設備を全面的にリニューアル。ガスを利用した熱源の機械を更新するとともに、給水配管部分なども改修。併せて、照明設備も新しいものに交換。展示資料や収蔵資料の品質を維持するために館内環境を改善した結果、収蔵庫の温湿度が安定し、展示室の結露も防止された
北澤美術館【長野県諏訪市】／2005年12月
諏訪本館で地震対策工事を実施。全展示ケースに免震装置を導入。既に横揺れを吸収する免震装置を取り付けてあるエミール・ガレの「ひとと茸ランプ」の特別展示ケースには、縦揺れも吸収する「三次元対応免震装置」を導入。柱状の独立ケース2基にも同様の装置を設置。収蔵庫棚の倒壊防止や展示ケースの飛び散り防止も図る。併せて、日本画展示室や喫茶室の改修を実施
岐阜県美術館【岐阜県岐阜市】／2005年4月
開館以来の空調設備が老朽化したため、全面改修工事を実施。所蔵品や展示品の保全に万全を期すため、床下にある空調用水槽を更新。2004年11月以来、約5カ月に及ぶ長期休館の間、収蔵作品は県内外の美術館に預けたり、企画展に貸し出すことで対応。また、個人の展覧会や美術グループの募集など、市民が伝えたい情報を紹介するコーナーを館内に設置
滋賀県立琵琶湖博物館【滋賀県草津市】／2006年3月
館内のトイレや正面玄関付近の身障者用駐車場などのユニバーサルデザイン化を実施。また、C展示室内に、企画展「歩く宝石オサムシー 飛ばない昆虫のふしぎ発見ー」（2005年7～11月開催）で使用した展示の一部を再利用し、常設展示として設置。他の展示物の再利用や他館からの廃物の再利用などを図ることで、リニューアル費用の低減化に努める
舞鶴市立赤れんが博物館【京都府舞鶴市】／2005年4月
市指定文化財である建物の耐震補強工事を実施。震度6程度の地震で倒壊しないよう、内壁や2階床面に鉄骨の筋交いを設置。れんがのつなぎ目に樹脂を注入して接着を強めるなどの措置を施す
土佐山内家宝物資料館【高知県高知市】／2005年4月
地下収蔵庫に温湿度調整機を導入するなど、施設全体の保存環境の改善に主眼を置いたリニューアルを実施。また、NHK大河ドラマ「功名が辻」が放映されることを受け、増加が見込まれる来館者にも対応することができるよう館内を改装。展示室では、土佐藩の歴史をわかりやすく解説したパネルの設置や展示ケースの入れ替えとともに、カーペットの張り替えなども実施

開設博物館／リニューアル博物館に関するデータの集計・分析では、各館園の開設（リニューアル）当時のデータに基づいて集計を行いました。また、一覧表については、2007年3月31日時点のデータに基づいて館園名、所在地などを表記しています。
2005年度の開設博物館情報／リニューアル博物館情報について、調査も、記載間違いなどがある場合は、ご教示いただければ幸いです。（石川・福留）

Museum in News

このコーナーでは、中央紙・地方紙の各紙面に掲載された博物館の開館やリニューアル、ならびに動向などの記事をダイジェストして、掲載日ごとにお伝えします。
※Museum in Newsはインターネットミュージアム (<http://www.museum.or.jp>) で公開しています。

4月の記事 (2006年)

- 1日 つくば市の「つくばエキスポセンター」はプラネタリウムを4月1日リニューアルオープン。光学式・デジタル式を統合した映像システムの導入やリクライニングシートを採用【茨城新聞】
- 2日 四日市市は「日本万国博オーストラリア記念館」を4月1日開館。愛知万博の人気モニュメント・カモノハシの巨大模型等を公開【伊勢新聞】
- 3日 東松山市に「大東文化大学ピアトリクス・ボタニカル資料館」が4月2日開館。大東文化大学が埼玉県こども動物自然公園内に開設【読売新聞埼玉県版】
- 七尾市に「辻口博啓美術館 ル ミュゼ ドゥ アッシュ」が4月3日開館。角俣三郎美術館に併設。パティシエ辻口氏の菓子を展示【朝日新聞石川版】
- 6日 豊橋市は豊橋総合動植物公園に「オーストラリア園」を4月22日開設。豪州の大地を模し、カンガルー科の動物等を生態展示【朝日新聞三河版】
- 7日 「札幌市文化資料室」が4月3日移転開館。札幌市資料館から旧豊水小へ移転し、総面積はそれまでの2.5倍に拡大【読売新聞】
- 9日 「奈良文化財研究所飛鳥資料館」は同館を舞台にしたミステリードラマ(50分)をHPで公開。ドラマ内で展示品をPRする等、新たなファン獲得を目指す【朝日新聞奈良版】
- 11日 「国立西洋美術館」は電子タグを利用したユビキタス化の導入を計画。収蔵作品にタグを装着し、携帯端末で動画を含む豊富な作品情報を公開【読売新聞】
- 12日 札幌市円山動物園は「展望レストハウス」を4月22日開設。職員のアイデアでくつろぎながらサル山を観察できる施設を整備【朝日新聞】
- 岩美町の山陰海岸自然科学館は「山陰海岸学習館」として4月22日開館。鳥取県立博物館の付属施設として活動を展開【読売新聞鳥取版】
- 13日 「中村研一記念小金井市立はげの森美術館」が4月開館。「中村研一記念美術館」を遺族が市に寄贈。市は企画展示スペースを新設【読売新聞】
- 三次市は「奥田元宋・小由女美術館」を4月15日開館。日本画家・奥田元宋の作品モチーフにある月に因み、満月の晩は22時閉館【日本経済新聞】
- 14日 「二戸市埋蔵文化財センター」が4月15日開館。縄文時代から中世の出土品等を展示。遺物復元作業室、体験学習室も整備【デリーー東北】
- 新宿区の「秩父宮記念スポーツ博物館」は4月1日改装開館。五輪カラーに因んだ5つのサブコーナーをリニューアル【産経新聞】
- 上越市の「川上善兵衛資料館」は4月13日改装開館。展示資料が4倍に増加。全国各地のワイン醸造技術者を紹介するコーナー等を新設【朝日新聞新潟版】
- 美濃加茂市は「太田宿中山道会館」を4月15日開館。展示室や駐車場に江戸の風情を再現した観光施設を整備【毎日新聞岐阜版】
- 豊岡市の城崎マリワールドは「ダイブ」を4月18日開設。海に潜る感覚を味わえる水槽「ダイブアドベンチャー」やイルカと泳げるプールを新設【朝日新聞但馬版】
- 鏡野町に旧上齋原村は「妖精の森ガラス美術館」を4月24日開館。常設展示室、ガラス製品を販売するアートショップ、ガラス工房等を整備【読売新聞岡山版】
- 16日 矢板市に「住友ミュージアム」が4月15日開館。足立区在住の医師が開館。琳派館と日本洋画館の2棟に収集品を展示【下野新聞】
- 唐津市に「木下・貝の資料館」が4月18日開館。日本貝類学会会員の木下氏が自宅内に開設。展示資料の数は約7千点【西日本新聞佐賀版】
- 19日 旭川市は嵐山公園センター内に「旭川市博物館分館アイヌ文化の森・伝承のコタン資料館」を4月23日移転開館。体験学習室等を新設【北海道新聞旭川版】
- 21日 日野市に「佐藤彦五郎 新選組資料館」が4月23日開館。新選組隊士の活動を物心両面で支えた佐藤彦五郎ゆかりの品々を展示【毎日新聞たま版】
- 土佐清水市は「国際交流の館・ジョン万ハウス」を4月20日移転開館。施設の老朽化に伴い、海の駅あしずり内に開設【高知新聞】
- 22日 一関市の「世嬉の一酒の民俗文化博物館」内に「いちのせき文学の蔵」が4月22日開館。一関ゆかりの作家12人の作品を展示【毎日新聞岩手版】
- 横浜市は「横浜人形の家」を4月22日改装開館。明るい照明でゆとりのある空間を整備。展示室は航海をイメージした空間【朝日新聞神奈川版】
- 三次市は「はらみちを美術館」を4月22日開館。車椅子の詩画家・はら氏の作品を展示。君田温泉「森の泉」の一角に設置【朝日新聞広島版】
- 23日 旧妻沼町は「熊谷市立荻野吟子記念館」を5月1日開館。日本最初の女性医師・荻野吟子の書簡等を展示【朝日新聞北埼玉版】
- 草津市の滋賀県立琵琶湖博物館は「集う・使う・創る新空間」を4月22日開設。利用者の情報発信・交流の場として活用【京都新聞滋賀版】
- 玉名市は「草枕交流館」を4月23日開館。「草枕」の舞台に漱石文学研究拠点を整備。宿泊場所の模型等を展示【読売新聞熊本版】
- 25日 倉吉市の倉吉博物館は「ちょこっとギャラリー」を4月25日開設。1階無料スペースに設置。市民の作品や収集品を紹介【読売新聞鳥取版】
- 26日 佐賀市に「吉島家緞通ミュージアム」が4月29日開館。中国緞通や色絵変形皿等により鍋島緞通の歴史を紹介【佐賀新聞】
- 27日 丸亀市のニューレオマワールド内に「せとうち夢虫館」が4月29日開館。チョウ等の標本や昆虫を高速度撮影した映像等を展示【読売新聞香川版】
- 28日 深浦町は「深浦美術館」を4月27日開館。町にゆかりのある芸術家作品56点を展示。照明の照射角度を工夫【北羽新報】
- 台東区の上野動物園は「クマたちの丘」を4月28日開設。のぞき窓からカメラ映像で冬眠を観察するブース等を整備【東京新聞】
- 豊島区の「サンシャイン国際水族館」はサンゴ礁のラグーンを再現した大型水槽を4月27日開設。水槽には77種の生物を展示【毎日新聞】
- 29日 「広尾町海洋博物館」が4月26日改装開館。地元出身の芸術家・植原武正氏の油絵等を紹介する常設展示コーナーを新設【十勝毎日新聞】
- 秋田県は秋田市に「あきた文学資料館」を4月28日開館。県立図書館の分館として、約5万点の資料を収蔵・展示【秋田魁新報】
- 越前市は「越前和紙の里・紙の文化博物館」は展示収蔵庫を4月29日開設。業者向けの研究室も整備【日刊県民福井】
- 30日 久留米市の福岡県青少年科学館はプラネタリウム「コスモシアター」を4月29日リニューアルオープン。日本初のレーザープロジェクターを導入【西日本新聞】

5月の記事 (2006年)

- 2日 札幌市の「サンピアザ水族館」は4月29日改装開館。魚に触れる水槽等の効果で来館者の滞在時間が増加【北海道新聞】
- 3日 平泉町の「毛越寺宝物館」は4月28日改装開館。世界遺産登録を念頭に、バリアフリーに対応する整備を実施【読売新聞岩手版】
- 5日 札幌市の「定山渓郷土博物館」は4月28日改装開館。定山渓地区特有の歴史資料をテーマごとに見やすく展示【札幌タイムス】
- 清里現代美術館やハケ岳美術館等、山梨・長野県境の16施設が「ハケ岳ミュージアム協議会」を結成。各館を巡るシャトルバスの運行も計画【朝日新聞長野中南信版】
- 11日 福岡市に「西南学院大学博物館」が5月13日開館。築85年の赤れんが館を改装。キリスト教関連資料約80点を展示【読売新聞福岡版】
- 12日 つがる市縄文住居展示資料館「カルコ」は4月22日改装開館。合併を機に旧5町村の出土品を展示。土器に触れるコーナーも新設【陸奥新報】
- 京都市の「高麗美術館」が5月11日改装開館。付設研究所を新築し、図書室や美術文化財収蔵室を新たに整備【産経新聞京都版】

- 14日 「芦北町立星野富弘美術館」が5月13日開館。原画やリトグラフ計30点以上を展示。3カ月に1回展示替えを実施【朝日新聞熊本版】
- 15日 田辺市は「南方熊楠顕彰館」を5月14日開館。熊楠邸が保管する蔵書、標本、草稿等2万5千点を収蔵【朝日新聞和歌山版】
- 16日 金沢市に「石川県立自然史博物館」が5月16日開館。旧県立愛育養護学校を改修。動植物や地学標本等を収蔵【北陸中日新聞】
- 神戸市の神戸海洋博物館内に「カワサキワールド」が5月15日開館。出展企業募集に応じた川崎重工業が整備【読売新聞神戸版】
- 18日 石川県立歴史博物館や石川近代文学館、金沢21世紀美術館等6施設で最新情報を入館者の携帯電話にメールで発信するシステムを導入【毎日新聞いしかわ版】
- 松江市に「島根大学ミュージアム」が5月17日開館。学内の展示室10拠点で構成。埋蔵文化財調査研究センターが「ミュージアム本館」【毎日新聞島根版】
- 20日 足立区に「石洞美術館」が5月19日開館。千住金属工業が新社屋に併設。広重の作品等を展示【朝日新聞東京川の手版】
- 21日 吹田市立博物館で開かれている市民44人が企画・運営する展覧会が来館者数を伸ばす。博物館の活性化と新たなまちづくりを目指す【大阪日日新聞】
- 24日 東京都江戸東京博物館は小学館等と初めての「江戸文化歴史検定」を11月に実施。公式テキストも発行する等、今後は毎年実施予定【朝日新聞】
- 26日 江東区ガスの科学館は「がすてなーに ガスの科学館」として6月2日移転開館。体験型展示の充実を図り、環境教育の拠点として整備【東京新聞】
- 首都圏22の大学博物館が「ユニバーシティ・ミュージアム懇談会」を開催。共同事業の企画に取り組む方針。06年秋には「連絡会」として全国組織を足立【読売新聞】
- 津市に「樋口友好ミュージアム」が5月18日開館。歯科医が愛知万博ブータン・ラオス館を購入・移設し、新たに整備【伊勢新聞】
- 27日 倉敷市は「大野昭和斎記念資料館」を5月27日開館。人間国宝の木工芸作家・大野昭和斎の旧宅を整備【毎日新聞おかも版】
- 29日 大津市に「渡来人歴史館」が5月28日開館。在日韓国人2世・河柄俊氏が設置。客観性を重視した展示を強調【朝日新聞滋賀版】

6月の記事（2006年）

- 2日 「川口市立文化財センター」が6月1日開館。出土した石器や地場産業である鋳物業の歴史・技術資料等を展示【埼玉新聞】
- 「直方谷尾美術館」では絵画1点ずつに椅子を用意、小国町の「坂本善三美術館」では畳敷きのフロアに寝そべって鑑賞できる等、各館が癒しの空間を提供【朝日新聞】
- 4日 「たつの市立埋蔵文化財センター」が6月4日開館。体験学習室を整備する等、参加体験に重点を置いた運営を展開【毎日新聞はりまひめじ版】
- 6日 名古屋市に「堀美術館」が6月1日開館。3つの展示室に、昭和の洋画家・日本画家の作品40数点を展示【朝日新聞】
- 8日 雲南市に「竹下登記念館」が5月27日開館。元首相の生家隣に設置。議員手帳、愛用品、写真等を展示【朝日新聞島根版】
- 9日 山口県立美術館は教材本「みる・しる・しらべるコレクション 雪舟筆『牧牛図』」を作成。11月に開かれる特別展の前に県内の幼稚園～高校に配布【読売新聞岩手版】
- 10日 砺波市に「となみ散居村ミュージアム」が6月10日開館。景観保全の拠点は情報館・伝統館・交流館で構成【北日本新聞】
- 12日 備前市の「BIZEN中南米美術館」が商品開発、ネット販売した中南米の調味料等に問い合わせが相次ぐ。今後はメキシコ料理店との提携も予定【読売新聞岡山版】
- 九重町に「岡本陸郎美術館」が6月10日開館。くじゅうの山々を見渡す地に、立体作品展示棟とペインティング展示棟を整備【大分合同新聞】
- 14日 JTB北海道は「北海道博物館・科学館活性化研究会」を設立。道内の博物館とともに個人旅行に対応する仕組みや交通網等を研究し、博物館の活性化を図る【北海道新聞】
- 15日 京都国立近代美術館は所蔵品から鑑賞希望作品を募集するコレクション展の開催を企画。一人だけの希望に応える展覧会は初の試み【読売新聞】
- 19日 京都市に「松本明慶佛像彫刻美術館」が6月18日開館。畳敷等の展示室に大仏師・松本氏の仏像約90点を展示【毎日新聞きょうと版】
- 20日 名古屋市の「でんきの科学館」は7月1日改装開館。展示室2室を改装。地球環境やエネルギー問題の展示を整備【毎日新聞】
- 21日 さいたま市のジョン・レノン・ミュージアムは「ミュージアム・ラウンジ」を6月1日開設。CDや本を鑑賞できるスペースを新たに設置【読売新聞埼玉県南版】
- 24日 名古屋市に「横井庄一記念館」が6月25日開館。ガム島からの帰還兵・横井庄一宅に開設。洞穴の模型や手作り漁具等を展示【毎日新聞】
- 27日 登米市に「しんせい資料館」が6月26日開館。国立ハンセン病療養所内に開設。入所者自治会が資料収集等を実施【読売新聞宮城版】
- 日光市の「さかなと森の観察園」内に「おさかな情報館」が6月29日開館。展示室とセミナー室で構成【毎日新聞栃木版】
- 28日 鳥栖市に「仏教資料館」が6月27日開館。石材会社社長が開設。仏像、仏画・掛軸等、50年間の収集品を展示【佐賀新聞】
- 29日 佐久市は「昆虫体験学習館」を6月28日開館。収蔵標本は1万点。周囲の山を観察・採取の拠点として活動を展開【読売新聞長野版】

7月の記事（2006年）

- 2日 「八王子市夢美術館」は独自の展覧会図録を作成。作品の写真や解説等を掲載したカードをバインダー形式で閉じるスタイル。鑑賞者が自由に組み替え可能【毎日新聞むさしの版】
- 4日 「那覇市歴史博物館」が7月8日開館。パレットくもじ4階に開設。国宝・尚家資料や横内家資料等、約7万点を所蔵【琉球新報】
- 8日 伊豆の国市に「伊豆 武者小路実篤 文学館」が7月7日開館。ゆかりの旅館内に実篤滞在時の絵画等を展示【読売新聞静岡版】
- 12日 志摩市に「サウンドミュージアム」が7月15日開館。合歓の郷に開設。自動演奏楽器の展示や体験スタジオ等を整備【毎日新聞中・南勢版】
- 13日 青森市に「青森県立美術館」が7月13日開館。絵画、演劇、音楽、映像、ダンス等が融合する新型の美術館【陸奥新報】
- 14日 「朝来市埋蔵文化財センター」が7月22日開館。道の駅内に開設。南但馬歴史・文化ミュージアム計画の中核施設【毎日新聞たじま版】
- 15日 富士河口湖町に「紙わらべの蔵」が7月14日開館。和紙人形作家・高木栄子氏の作品40点を展示【産経新聞山梨版】
- 16日 品川区のしながわ水族館は「アザラシ館」を7月20日開設。透明トンネルで頭上や足下を泳ぐゴマフアザラシを観察【朝日新聞】
- 17日 千代田区の「昭和館」は7月改装開館。戦中・戦後の時代を理解しやすくするために、パソコンを使った体験型展示を導入【日本教育新聞】
- 「大阪市天王寺動物園」は1915年に開園以来、入園者数が1億人を突破。過去には上野動物園が3億人、名古屋市東山動植物園が1億人を突破【毎日新聞】
- 19日 京都市学校歴史博物館は第4展示室「開智教育資料室」を開設。同館の前身である開智小学校関連の資料を展示【京都新聞】
- 20日 川崎市の「東芝科学館」は7月改装開館。開館45周年を迎え、リニューアル。創業者や冷蔵庫・ワープロ等1号機の展示コーナーを新設【毎日新聞川崎版】
- 21日 東京都歴史文化財団は大学、専修学校、高等学校向けにパートナーシップ事業を開始。各館同一地域での競合と学生の利用頻度向上が今後の課題【新美術新聞】
- 倉敷市の野崎家塩業歴史館は敷地内に「塩づくり体験館」を7月開設。小中高生を対象に体験施設の整備を図る【朝日新聞岡山版】
- 22日 糸魚川市の「フォッサマグナミュージアム」は7月22日改装開館。ドイツ人地質学者エドムント・ナウマン博士の展示を新設【新潟日報】
- 26日 旭川市旭山動物園は「第二こども牧場」を7月22日開設。ヤギのアスレチックやヒツジの遊び場等を整備【読売新聞】

- 港区に「青山ユニマツ美術館」が7月26日開館。シャガールの幻の名画をはじめ、ピカソ、藤田嗣治等の絵画約200点を所蔵【東京新聞】
- 29日 志賀町に「坪野哲久文学記念館」が7月28日開館。歌人・坪野哲久の生誕100周年を機に開設。自筆の歌や愛用品を展示【北陸中日新聞】
- 31日 那智勝浦町に環境省が「宇久井ビジターセンター」を7月9日開館。建物は太陽光等の自然エネルギーを活用する環境に配慮した設計【産経新聞和歌山版】

8月の記事 (2006年)

- 1日 千葉市に「マリーンズ・ミュージアム」が8月1日開館。プロ野球球団・千葉ロッテが球場周辺に開設。館内にはレクチャールームも整備【千葉日報】
- 能登町に「真頼古文書館」と「あまめはぎ館」が7月31日開館。市民グループによる奥能登プチミュージアム構想の一環。目標は50館開設【朝日新聞石川版】
- 奈良市の「奈良国立博物館」は平常展を8月1日一新。展示構成を時代別からテーマ別に変え、照明も工夫【産経新聞奈良版】
- 5日 旭川市旭山動物園は「チンパンジーの森」を8月5日開設。同園9つ目の行動展示施設。目玉は空中トンネル「スカイブリッジ」【読売新聞】
- 6日 港区に「リスーピア」が8月5日開館。松下電器産業がパナソニックセンター内に設置。理科・数学の体感展示施設【産経新聞】
- 8日 台東区の「上野の森美術館」は別館を8月7日開館。本造建物で1階にギャラリー、3階には絵画教室のアトリエを整備【産経新聞】
- 鳥羽市の鳥羽みなとまち文学館は「幻影城」を8月7日開館。江戸末期～明治初期頃の土蔵を改修。東京・乱歩邸の土蔵に因んで命名【伊勢新聞】
- 10日 水戸芸術館は親子で気軽に展覧会を鑑賞してもらう「赤ちゃんと一緒に美術館散歩」を実施。案内係が付き添い、展示解説等のサポートを充実【茨城新聞】
- 11日 「北杜市囲碁美術館」が8月10日開館。囲碁関連の絵画・陶磁器等の展示の他に、対局室も整備【山梨日日新聞】
- 12日 独立行政法人国立美術館は鑑賞教育研修会を開催。小中学校の教員や学芸員等が参加し、鑑賞教育の指導者を養成する試み【日本経済新聞】
- 13日 「東京国立博物館」と「上野動物園」が連携してガイドツアーを実施。博物館の学芸員は動物園で動物を、動物園の職員は博物館で美術品を解説【朝日新聞】
- 北九州市立美術館は芸術作品の研究や館の仕事を手伝う「ジュニアボランティア」の養成講座を開催。小学3年生から中学2年生が対象【読売新聞】
- 16日 佐野美術館は入館協約を結ぶ近隣10高校の生徒による初の展覧会を開催。作品制作、展示方法やイベントの立案等、全てを高校生が担当【静岡新聞】
- 17日 全国の博物館・美術館49館がオリジナル商品を出展・販売する「ミュージアムグッズフェア」が開催。売り上げ個数1位は福岡市の「金印スタンプ」【読売新聞福岡版】
- 18日 「川崎市市民ミュージアム」と慶應義塾大学は同ミュージアム所蔵の映像フィルムをデジタル化して保存活用する共同研究プロジェクトを開始【日本経済新聞】
- 兵庫県教育委員会が「兵庫県立美術館」を宣伝する広告バッグを作成。県庁職員が使用する紙袋の両面に、展覧会の作品等を印刷【神戸新聞】
- 20日 安来市の足立美術館が全国の美術館で初めて、外国人向けの観光案内所「i案内所」に指定される。外国人入館者の受け入れ態勢の充実を図る【山陰中央新報】
- 21日 釧路市動物園は「クマタカ舎」を8月19日開設。同園で誕生した希少種を自然な形で観察可能【釧路新聞】
- 26日 「郡山市ふるさと考古資料展示室」が開館。文化財調査研究センター2階に開設。市内出土品等350点を展示【読売新聞福島版】
- 29日 富山市に「北陸銀行金融歴史資料館」が8月28日開館。同行が本店ロビーに設置。2007年中に拡充を予定【日本経済新聞北陸経済版】

9月の記事 (2006年)

- 1日 九州国立博物館の誘致・建設を支援した博物館等建設推進九州会議の季刊誌「ミュージアム九州」(1981年創刊)が終刊号となる81号を発行【西日本新聞】
- 4日 国立科学博物館は博物館や大学の標本データをネット検索できる「自然史標本情報検索システム」を開始。100施設以上のデータ公開が目標【東京新聞】
- 町田市立国際版画美術館の「トーク・フリー・タイム」が好評。会話を楽しみながら作品鑑賞できる時間帯を設定。今後は時間帯を広げる方針【朝日新聞多摩版】
- 7日 大阪市天王寺動物園は「アフリカサバンナ区肉食動物ゾーン」を9月9日開設。生息環境を再現する生態的展示を実施【朝日新聞】
- 岡山市の夢二郷土美術館は喫茶室「松香」を8月24日開設。展示室の一部を改装して整備。夢二の木版画を展示【毎日新聞おかやま版】
- 8日 北秋田市は「合川歴史民俗資料室」を9月1日開館。合併で空いた役場の議員控室に、昔の道具等約250点を展示【毎日新聞秋田版】
- 港区に「紅ミュージアム」が9月開館。紅をテーマに伊勢半本店が設けた展示施設。メーキャップ体験コーナーも設置【毎日新聞】
- 9日 五島市は「五島観光歴史資料館」を9月改装開館。合併を機に新市全体をテーマにした展示を再構成【長崎新聞】
- 10日 関市に「岐阜現代美術館」が9月9日開館。鍋屋バイテック会社関工園内に地域の文化拠点として整備【岐阜新聞】
- 兵庫県立美術館は「兵庫ブンガク検定初級編」を試験的に実施。「ネットミュージアム兵庫文学館」の関連事業。今後はネット上で本格的な検定を計画【神戸新聞】
- 14日 各地で「ユニバーサル・ミュージアム」の取り組みが広がる。「国立民族学博物館」では「さわる文字、さわる世界」展を開催。視覚に頼らず触覚の可能性を追求【朝日新聞】
- 15日 犬山市の日本モンキーパークは「モンキースクラムブル」を9月16日開設。サル動きを下から見上げて立体的に鑑賞【名古屋タイムズ】
- 19日 瀬戸市に「あいち海上の森センター」が9月25日開館。愛知万博の瀬戸愛知県館を森林・里山の学習施設に整備【名古屋タイムズ】
- 23日 「青森市森林博物館」は9月23日改装開館。閉館した青森市歴史民俗展示館「稽古館」の収蔵品の一部を新たに常設展示【東奥日報】
- 27日 矢板市に「マロニエ昆虫館」が10月1日開館。県民の森総合管理センターの1階部分を改装。声の展示を用いる等、展示に工夫【下野新聞】
- 山梨県立博物館は「通信簿ツアー」を実施。NPO法人が評価項目を募集し、利用者の視点で通信簿を作成。今後の博物館づくりに活かす方針【毎日新聞山梨版】
- 28日 館林市に「足尾鉾毒事件田中正造記念館」が10月1日開館。旧保育園の空き室を改装し、開設。NPO法人が管理・運営【毎日新聞群馬版】
- 29日 常滑市に「INAXライブミュージアム」が10月1日開館。既存の3館に加え、「土・どろんこ館」と「ものづくり工房」を新設【毎日新聞】
- 30日 郡山市に「郷さくら美術館」が10月1日開館。コマツ福島社長の日本画コレクションを展示。昭和生まれの日本画家の作品ばかりを収集【福島民報】
- 安曇野市に「マルク・シャガール安曇野穂高美術館」が9月28日開館。建物は閉館した夢穂高美術館を活用【日本経済新聞長野経済版】